

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告
二〇一七―八

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

2018年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

公益財団法人
京都市埋蔵文化財研究所

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

2018年

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所



2区北半 第1・2面全景（東から）



2区南半 道路640 (西北西から)

序 文

京都市内には、いにしへの都平安京をはじめとして、数多くの埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が点在しています。平安京以前にさかのぼる遺跡及び平安京建都以来、今日に至るまで営々と生活が営まれ、各時代の生活跡が連綿と重なりあっています。このように地中に埋もれた埋蔵文化財（遺跡）は、過去の京都の姿をうかびあがらせてくれます。

公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所は、遺跡の発掘調査をとおして京都の歴史の解明に取り組んでいます。その調査成果を市民の皆様に広く公開し、活用していただけるよう努めていくことが責務と考えています。現地説明会の開催、写真展や遺跡めぐり、京都市考古資料館での展示公開、小中学校での出前授業、ホームページでの情報公開などを積極的に進めているところです。

このたび、ホテル新築工事に伴う平安京跡・烏丸町遺跡の発掘調査について調査成果を報告いたします。本報告の内容につきましてお気づきのことがございましたら、ご教示賜りますようお願い申し上げます。

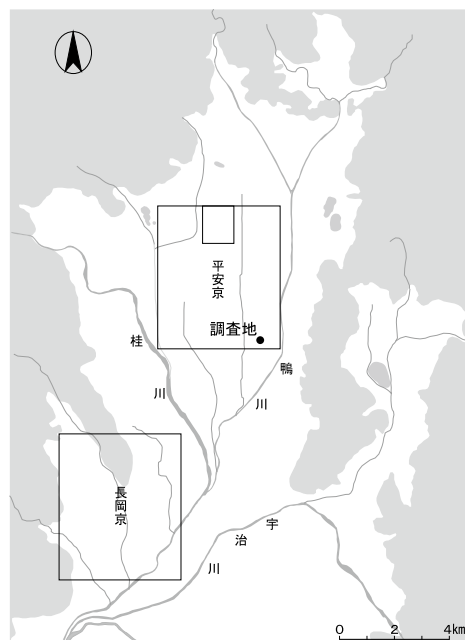
末尾になりましたが、当調査に際しまして多くのご協力とご支援を賜りました多くの関係各位に厚く感謝し、御礼を申し上げます。

平成30年3月

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所
所 長 井 上 満 郎

例 言

- 1 遺 跡 名 平安京跡・烏丸町遺跡（京都市番号 16 H 654）
- 2 調査所在地 京都市南区東九条室町46－2、56
- 3 委 託 者 株式会社 三越ユニティー 代表取締役 王本寛一
- 4 調査期間 2017年8月1日～2017年11月10日
- 5 調査面積 752.8㎡
- 6 調査担当者 鈴木康高・松吉祐希
- 7 使用地図 京都市発行の都市計画基本図（縮尺1：2,500）「京都駅」・「梅小路」を参考にし、作成した。
- 8 使用測地系 世界測地系 平面直角座標系Ⅵ（ただし、単位（m）を省略した）
- 9 使用標高 T.P.：東京湾平均海面高度
- 10 使用土色名 農林水産省農林水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帖』に準じた。
- 11 遺構番号 通し番号を付し、遺構の種類を前に付けた。
- 12 遺物番号 種類ごとに通し番号を付し、写真番号も同一とした。
- 13 本書作成 鈴木康高・松吉祐希
- 14 執筆分担 鈴木：3、4－（1）・（2）・（4）・（5）、5
松吉：1、2、4－（3）
- 15 備 考 上記以外に調査・整理ならびに本書作成には、調査業務職員及び資料業務職員があたった。
- 16 協力者 調査に際して、下記の方々からご教示を頂いた。記して、感謝を申し上げます（五十音順、敬称略）。
網 伸也、北野信彦、佐藤亜聖、
竹本 晃、西山良平



(調査地点図)

目 次

1. 調査経過	1
(1) 調査に至る経緯	1
(2) 調査の経過	2
2. 位置と環境	3
(1) 位置と環境	3
(2) 周辺の調査	4
3. 遺 構	9
(1) 基本層序	9
(2) 1区	10
(3) 2区	11
4. 遺 物	16
(1) 土器類	16
(2) 瓦類	20
(3) 銭貨	25
(4) ガラス製品	25
(5) 石製品	25
5. まとめ	27

図 版 目 次

巻頭図版1 遺構 2区北半 第1・2面全景（東から）

巻頭図版2 遺構 2区南半 道路640（西北西から）

図版1 遺構 第3面遺構平面図（1：300）

図版2 遺構 第2面遺構平面図（1：300）

図版3 遺構 第1面遺構平面図（1：300）

図版4 遺構 1区東壁・南壁断面図（1：100）

図版5 遺構 2区西壁・北壁断面図（1：100）

図版6 遺構 1区建物1実測図（1：50）

- 図版7 遺構 1区建物2実測図(1:50)
- 図版8 遺構 1区建物3実測図(1:50)
- 図版9 遺構 1区柵1・3実測図(1:50)
- 図版10 遺構 1区柵2実測図(1:50)
- 図版11 遺構 2区建物5実測図(1:50)
- 図版12 遺構 2区建物4実測図(1:100)
- 図版13 遺構 2区建物4土層名
- 図版14 遺構 2区地業782実測図(1:40)
- 図版15 遺構 2区柵4・5実測図(1:50)
- 図版16 遺構 1区井戸41、2区井戸600・603・700実測図(1:20、井戸700のみ1:50)
- 図版17 遺構 2区井戸801・883・787・571実測図(1:50)
- 図版18 遺構 2区道路640実測図(1:50)
- 図版19 遺構 1 1区 第3面全景(北西から)
2 1区 第1・2面全景(北西から)
- 図版20 遺構 1 1区 建物1・2(西から)
2 1区 柵2・3(北から)
3 1区 井戸41(東から)
- 図版21 遺構 1 2区北半 第3面全景(北西から)
2 2区南半 第3面全景(北から)
- 図版22 遺構 1 2区南半 第2面全景(北から)
2 2区南半 第1面全景(北から)
- 図版23 遺構 1 2区北半 第1・2面全景(東から)
2 2区 建物4西半(北から)
3 2区 建物4の柱穴718(西から)
4 2区 建物4の柱穴718半裁(西から)
- 図版24 遺構 1 2区 地業782(西から)
2 2区 地業782砂礫除去後(西から)
3 2区 地業782木板(北西から)
4 2区 柱穴777半裁(東から)
5 2区 柱穴829・830半裁(東から)
- 図版25 遺構 1 2区 柵5(北から)
2 2区 柵4の柱穴626(北から)
3 2区 柵4の柱穴627(北から)
4 2区 道路640断面(西から)
- 図版26 遺構 1 2区 井戸600(北から)

- 2 2区 井戸801 (西から)
- 3 2区 井戸787 (北から)
- 4 2区 井戸571 (西から)

図版27 遺物 出土土器

挿 図 目 次

図1	調査位置図 (1 : 2,500)	1
図2	調査区配置図 (1 : 1,000)	2
図3	2区調査前全景 (南東から)	2
図4	2区作業風景 (南西から)	2
図5	周辺調査位置図 (1 : 5,000)	4
図6	基本層序断面図 (1 : 40)	9
図7	2区北半南壁断面図 (1 : 80)	12
図8	1区出土土器実測図 (1 : 4)	17
図9	2区出土土器実測図 (1 : 4)	18
図10	井戸枠転用甕実測図 (1 : 6)	19
図11	その他の遺構出土土器実測図 (1 : 4)	20
図12	青磁皿 (64) 底部の墨書	20
図13	軒丸瓦拓影及び実測図 (1 : 4)	21
図14	軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)	23
図15	銭貨拓影 (1 : 1)	25
図16	ガラス玉実測図及び写真 (1 : 2)	25
図17	石製品実測図 (1 : 4)	26
図18	第3面遺構概要図 (1 : 1,000)	27
図19	第2面遺構変遷図1 (1 : 500)	29
図20	第2面遺構変遷図2 (1 : 500)	31

表 目 次

表1	周辺の発掘調査一覧表	5
表2	周辺の試掘・立会調査一覧表	6
表3	遺構概要表	9
表4	遺物概要表	16

付 表 目 次

付表1	土器観察表	32
-----	-------------	----

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

1. 調査経過

(1) 調査に至る経緯 (図1)

本調査はホテル新築工事に伴う発掘調査である。調査地は京都市南区東九条室町46-2、56に所在し、平安京左京九条三坊八町跡及び烏丸町遺跡にあたる。

ホテル新築工事に先立ち、京都市文化市民局文化芸術都市推進室文化財保護課（以下、「文化財保護課」とする）が試掘調査を行った結果、平安時代末期から鎌倉時代の遺構・遺物を確認した。そのため、文化財保護課は原因者に対して埋蔵文化財調査の実施を指導し、発掘調査が行われることとなった。調査は委託を受けた公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所が行った。

今回の調査では、試掘調査や既往の周辺調査により、主に平安時代から室町時代の遺構の検出が想定された。

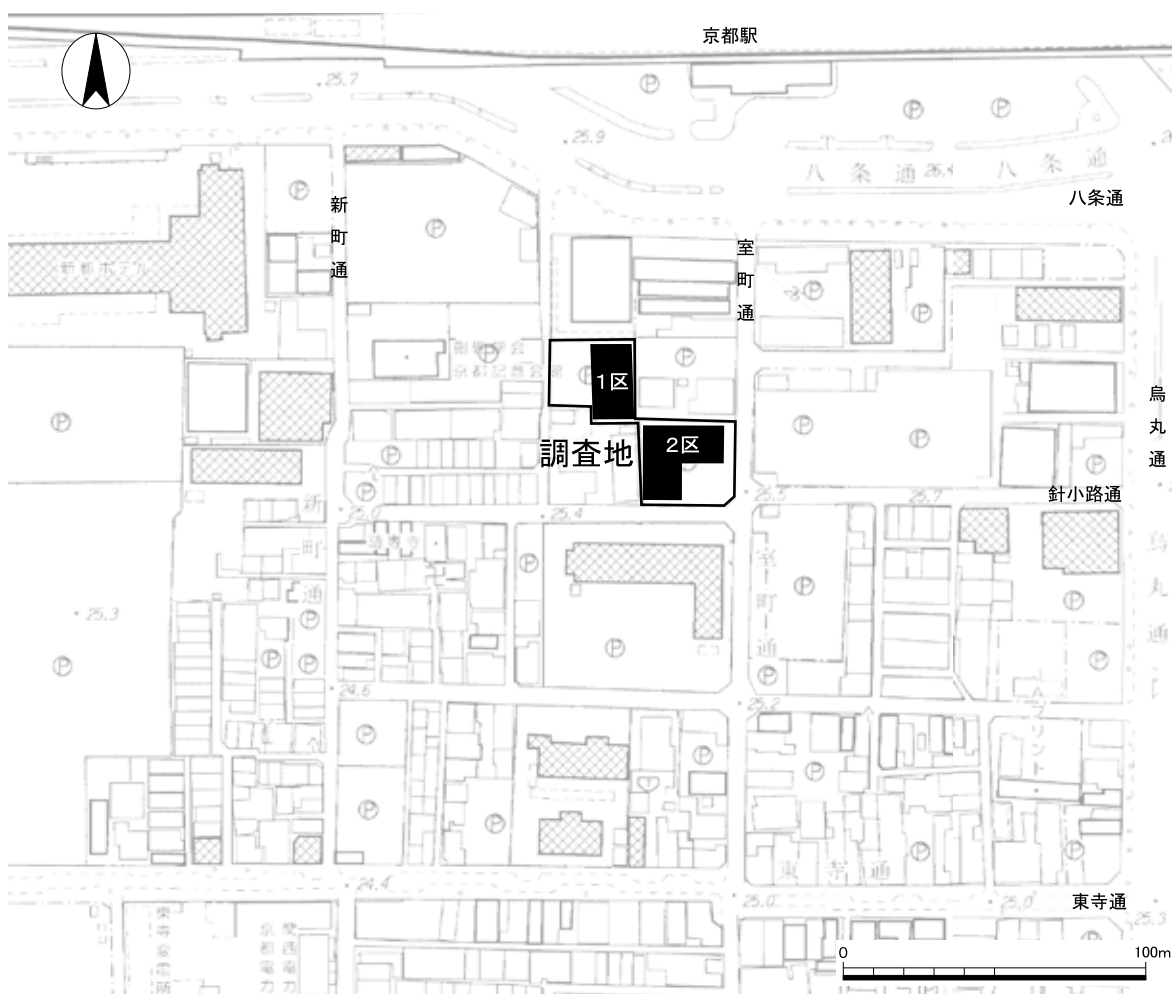


図1 調査位置図 (1 : 2,500)

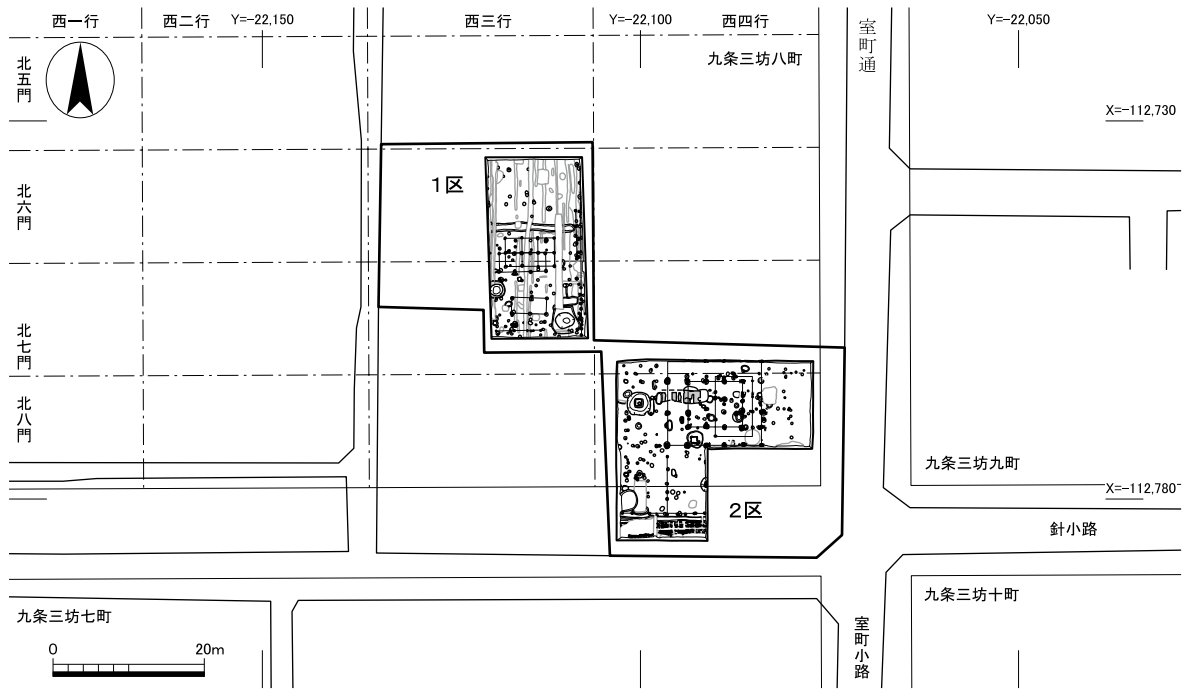


図2 調査区配置図 (1 : 1,000)

(2) 調査の経過 (図2～4)

本調査は2017年8月1日に開始した。調査区は文化財保護課の指導により、北西の1区、南東の2区を設定した。2区は排土置き場を確保するため、反転調査を行った。まず1区と2区南半の調査を行い、調査終了後に2区北半の調査を行った。1区は東西12.8m、南北24m、2区南半は東西12m、南北12m、2区北半は東西26m、南北11.6mで、調査総面積は752.8㎡である。

調査では、近現代の盛土及び近世耕作土は重機掘削を行った。近世耕作土の下面で鎌倉時代後半以降の遺構面(第1面)、鎌倉時代前半の遺構面(第2面)、平安時代中期の遺構面(第3面)を確認し、それぞれの遺構面で遺構を検出した。検出した遺構は人力で掘削し、図面作成・写真撮影などの記録作業を行った。また、遺構の状況によりオルソ測量も併用して行った。調査後は埋め戻しを行い、11月10日にすべての作業を終了した。



図3 2区調査前全景 (南東から)



図4 2区作業風景 (南西から)

2. 位置と環境

(1) 位置と環境

調査地は京都盆地の北部にあたる。京都盆地の北部では、3～4万年前に天神川や鴨川などの河川による扇状地¹⁾が形成された。とくに調査地周辺は、その鴨川扇状地を削り込んだ谷に、1万～6千年前に鴨川が形成した小規模な扇状地²⁾であり、礫層が厚く堆積する。平安遷都以前には、周辺に弥生時代から古墳時代の集落跡である烏丸町遺跡が広がっていた。

延暦13年(794)に長岡京から平安京へ遷都されると調査地周辺は平安京城となる。調査地は、北を八条大路、南を針小路、東を室町小路、西を町尻小路に囲まれた平安京左京九条三坊八町の南東部に位置する。

以下、文献史料から知ることのできる、調査地周辺の様相を記す。

平安京左京九条三坊八町(以下、「平安京左京」は省略)については、平安時代の様子を記した文献史料は確認できない。

調査地の北西側に位置する八条三坊四町には、関白藤原忠実が康治年間(1142～1144)に一間四面の堂を建立しており、この堂に丈六の阿弥陀如来像を安置した(『兵範記』仁安四年(1169)二月三日条)。

北側に位置する八条三坊五町には、白河天皇の寵臣であった藤原顕隆が大治二年(1127)に「八条堂」を供養し(『中右記』大治二年十一月十八日条)、この堂に丈六の五大尊を安置した。この邸宅は平治年間(1159～1160)には美福門院得子の御所として受け継がれた(『百練抄』養和元年(1181)二月十七日条)。その後、権大納言平頼盛はこの地に「池殿」(『拾芥抄』)や「八条室町亭」(『中右記』)と呼ばれた邸宅を新造した。

北東側に位置する八条三坊十二町には、鎌倉時代初頭に左大臣藤原良輔の邸宅が存在した(『拾芥抄』東京図)。

東側に位置する九条三坊九町では、北西隅の一戸主が、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、八条院領となっている(『鎌倉遺文』三〇九五・二五〇五九・二五〇六〇号)。

南側に位置する九条三坊七町には、「朴殿」と呼ばれる邸宅があったとされるが、これについての詳細は不明である(『拾芥抄』東京図)。

南東側に位置する九条三坊十町は、施薬院の御倉の敷地であったが、承久二年(1220)には分割され、中央部に辻子があったことが知られる(『九条家文書』承久二年六月十八日付の文書)。

このように調査地周辺については、平安時代前期から中期にかけての様相は明らかでない。これは、平安時代前期頃の左京九条周辺が「湧き水多く流水満ち溢れていた」(『綜芸種智院の式』『三教指帰 性霊集』)ことにも起因するのであろう。しかし、平安時代末期になると調査地周辺である八条や九条の記述が多くみられるようになる。とくに調査地周辺では12世紀以降、池をもつ邸宅や仏堂が建立されたようである。

(2) 周辺の調査 (図5、表1・2)

次に発掘調査成果から知ることのできる、調査地周辺の様相を以下に時代順に記す。

奈良時代以前 自然流路や砂礫層より、縄文・弥生・古墳時代の遺物が含まれる事例 (調査4～7・9・12・13・23) が多くみられる。遺構として、縄文時代の遺物を含む小窪みや弥生の溝 (調査19) を検出している。

平安時代前期～中期 掘立柱建物 (調査8)、井戸 (調査19・20) もみられるが、池・池状の遺構 (調査3・10・15・16) や流路 (調査3・11・16) を検出している。

平安時代後期 建物、柵、井戸、柱穴、地業、池 (調査1・5・12・13・16・21～24) などの邸宅に関連する遺構の数は増える。

平安時代末期から鎌倉時代 建物、柵、井戸、柱穴、地業 (調査1～3・5・7～13・15・16・18～24) をはじめ、甕倉 (調査12) など、多くの遺構を検出しており、平安時代末期から鎌倉時代にかけて、遺構密度はこれ以前と比べて高くなっている。

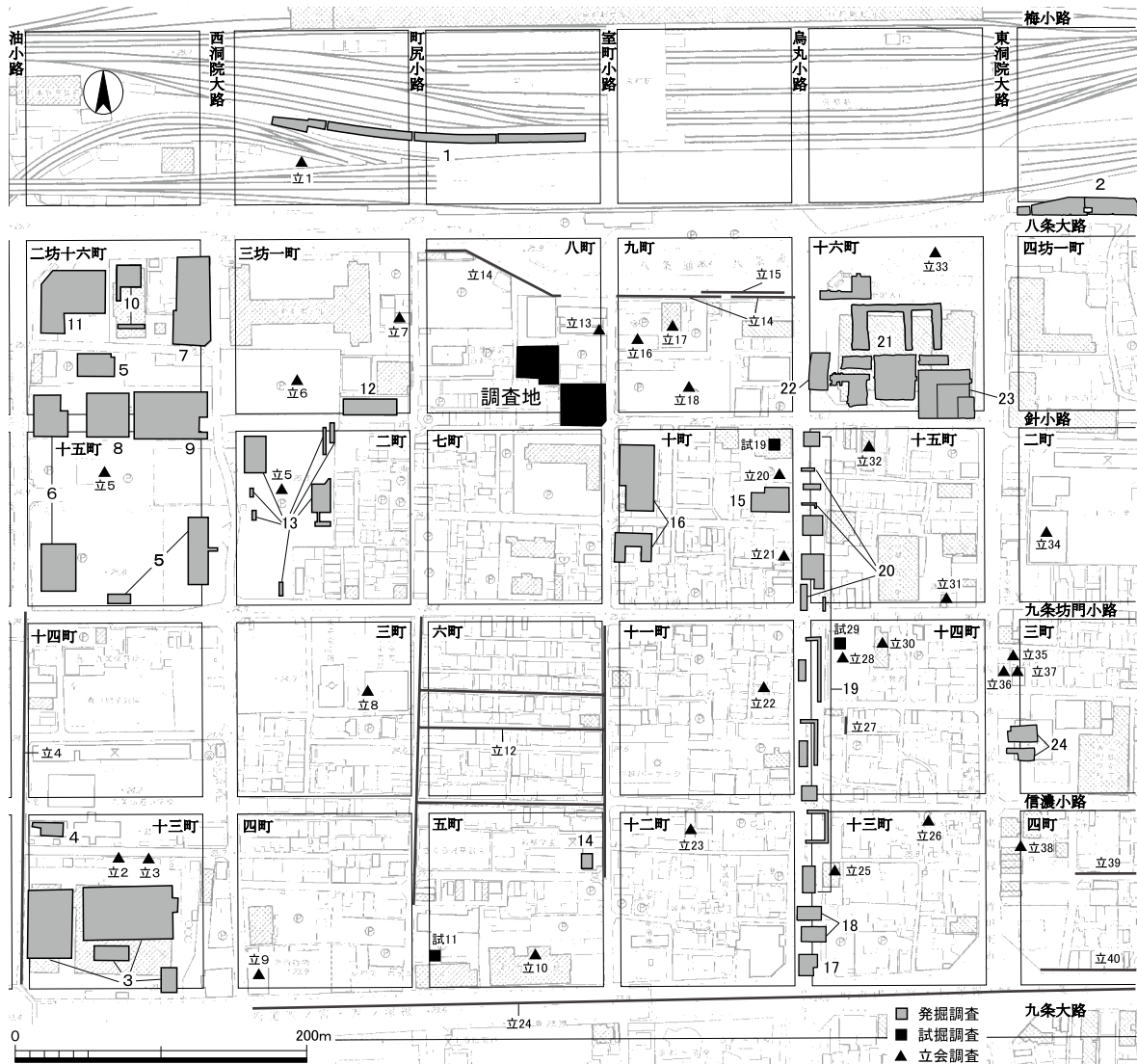


図5 周辺調査位置図 (1 : 5,000)

表1 周辺の発掘調査一覧表

番号	調査地点	条坊・区画関連等	宅地・整地関連等	流路・湿地・耕作関連等	文 献
1	八条三坊四・五町	平安後～室町前の町尻小路路面・東西側溝	平安後の池・建物・泉・溝・土坑・井戸・集石・柱列、鎌倉の地業・建物・泉・井戸・柱列・土坑、室町の井戸・土坑・柱穴	平安後の湿地、室町以降の耕作に伴う溝	『平安京左京八条三坊四・五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2009-7 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2009年
2	八条四坊四・五町	平安末～鎌倉の東洞院大路・東側溝・東築地内溝、八条大路北側溝	A区：平安末～鎌倉の井戸・柱穴・土坑、室町の井戸・柱穴・土坑	江戸の耕作土	『平安京左京八条四坊四・五町跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2006-20 (財)京都市埋蔵文化財研究所 2007年
3	九条二坊十三町	平安後の油小路東側溝、御土居の堀	平安前～中の池状遺構、鎌倉の建物・井戸・土坑・溝	平安前～中の流路	『平安京左京九条二坊』『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年
4	九条二坊十三町	御土居の堀		砂礫層から古墳の土器	『平安京左京九条二坊十三町』『昭和55年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年
5	九条二坊十五・十六町	平安後の十五町北五・六門、十六町北四・五門区画溝	平安後の溝・柵・柱穴・土坑、鎌倉～室町の井戸・柱穴	砂礫層から弥生・古墳の土器、近世の耕作に伴う溝・暗渠	『平安京左京九条二坊』『平成2年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1994年
6	九条二坊十五・十六町	御土居の堀		砂礫層から弥生・古墳の土器、近世末以降の耕作に伴う溝	『平安京左京九条二坊』『平成3年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
7	九条二坊十六町		平安後～鎌倉、室町の柱穴・土坑・井戸・池状遺構	砂礫層から弥生・古墳の土器、近世の耕作溝	『平安京左京九条二坊2』『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
8	九条二坊十五・十六町	平安後の十六町西二・三行の区画溝。針小路側溝	平安前の掘立柱建物、鎌倉～室町の井戸・柱穴		『平安京左京九条二坊1』『平成4年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1995年
9	九条二坊十五・十六町	平安後～鎌倉の針小路に伴う溝	平安後～鎌倉の土坑・柱穴・井戸	砂礫層から弥生・古墳の土器、近世以降の暗渠・溝	『平安京左京九条二坊』『平成5年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1996年
10	九条二坊十六町		平安前の池・土坑、平安末～鎌倉の柱穴・井戸・土坑・溝・溝状遺構・石積の小園池	平安前の落込み・湿地、鎌倉末以降耕作地化	『平安京左京九条二坊』『平成10年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2000年
11	九条二坊十六町	御土居の堀	平安末～鎌倉前の地業、建物・井戸・土坑、鎌倉中～後の地業・柱穴列・井戸・土坑	平安前の流路、桃山以後の耕作地化に伴う溝	『平安京左京九条二坊十六町跡・御土居跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2014-9 (公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
12	九条三坊一町		平安後の地業、平安末～鎌倉の土器溜・井戸・土坑・柱穴・甕倉	古墳の遺物を含む流路	『平安京左京九条三坊一町跡』『平安京左京内5遺跡 平安京跡研究調査報告第22輯』財団法人 古代学協会 京都 平成20年
13	九条三坊二町	平安後の針小路路面・南側溝	平安後の園池・掘込・ピット、鎌倉の井戸・柱穴・土坑	自然流路・砂礫層より弥生～古墳の遺物、室町以降耕作地化	『平安京左京九条三坊』『平成9年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1999年
14	九条三坊五町			時期不明の落込み、近世以降の耕作溝	『平安京左京九条三坊五町』『昭和54年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2012年
15	九条三坊十町		平安前～中の建物・池・溝・土坑、鎌倉～室町の建物・堀・井戸・溝・土坑	室町以降の耕作に伴う溝	『平安京左京九条三坊十町』古代文化調査会 2006年
16	九条三坊十町		平安前～中の池・泉、平安中～後の池・土坑・柱穴、平安末～鎌倉中の整地層・建物・井戸・土坑・柱穴・柵・集石	後世包含層に混入して弥生・古墳の土器、平安前～中の流路、室町以降の耕作溝	『平安京左京九条三坊十町跡・烏丸町遺跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告2013-15(公財)京都市埋蔵文化財研究所 2015年
17	九条三坊十三町	平安後の烏丸小路路面・東側溝、室町後の濠(城興寺関係か)	近世のピット・柱穴		『九条三坊(2)』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985年
18	九条三坊十三町	平安後の烏丸小路路面・東側溝、室町後のの濠(城興寺関係か)	平安後の整地層・溝、鎌倉の井戸	平安前の窪地	『九条三坊(1)』『昭和58年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1985年
19	九条三坊十三町～十五町	平安後～鎌倉前の烏丸小路東側溝、室町以降の濠(城興寺関係か)	平安前の小井戸、平安中の柱穴・土坑・溝、平安後～鎌倉前の土坑・井戸・溝・柱穴	縄文土器を含む地山砂礫層上面の小窪み、弥生の溝、室町以降の耕作地	『平安京左京九条三坊』『昭和59年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1987年
20	九条三坊十五町	平安後～鎌倉前の烏丸小路東側溝・九条坊門小路北側溝	平安前の井戸・土坑・溝、鎌倉の土坑・ピット	室町以降耕作地化	『平安京左京九条三坊』『昭和60年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年

番号	調査地点	条坊・区画関連等	宅地・整地関連等	流路・湿地・耕作関連等	文 献
21	九条三坊十六町		平安後～鎌倉の井戸・建物・柵・溝	室町以降耕作地化	『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財調査概報 昭和54年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1980年
22	九条三坊十六町		平安後～室町前の井戸・土坑・柱穴・柵		「左京九条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(発掘調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1982年
23	九条三坊十六町		平安後～室町の井戸・土坑・溝・柱穴	砂礫層から縄文土器、遺構下層で北西から南東方向に流れる旧河川跡	『平安京左京九条三坊跡 京都駅南口地区第一種市街地再開発事業に伴う埋蔵文化財調査概報 昭和55年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年
24	九条四坊三町	平安後の南北築地と内側溝・外側溝(東洞院大路東側溝)	平安後の井戸(東洞院大路路面上)、平安末～鎌倉初の井戸、室町の井戸		「平安京左京九条四坊三町」『昭和53年度京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 2011年

表2 周辺の試掘・立会調査一覧表

番号	条坊地点	検出遺構・出土遺物等	文 献	調査No.
立1	八条三坊四町	中世の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年	08-HL47
立2	九条二坊十三町	平安末～鎌倉初の土坑、鎌倉前の遺物包含層、中世の落込み	『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年	97-HL434
立3	九条二坊十三町	鎌倉の落込み、遺物包含層・南北溝	『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』京都市文化市民局 2001年	00-HL37
立4	九条二坊十三町～十四町、油小路	平安末～鎌倉の遺物包含層、油小路西側溝か	『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	02-HL208
立5	九条二坊十五町、九条三坊二町	中世の遺物包含層、御土居の一部	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年	07-HL14
立6	九条三坊一町	鎌倉中の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成15年度』京都市文化市民局 2004年	03-HL389
立7	九条三条一町	鎌倉後の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年	05-HL331
立8	九条三坊三町	古墳の遺物を含む流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年	84-HL316
立9	九条三坊四町	室町の遺物包含層、時期不明の流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年	86-HL207
立10	九条三坊五町	室町の東西溝	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和63年度』京都市文化観光局 1989年	88-HL168
試11	九条三坊五町	平安の遺物を含む流れ堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年	90-HL91
立12	九条三坊五・六町	平安末～室町の水田跡・水路・南北溝	「左京九条三坊」『昭和56年度 京都市埋蔵文化財調査概要(試掘・立会調査編)』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1983年	
立13	九条三坊八町	鎌倉・室町の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	94-HL208
立14	九条三坊八・九町	鎌倉・江戸の遺物包含層・落込み・路面	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	93-HL332
立15	九条三坊九町	平安後～末の落込み、鎌倉～江戸の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成6年度』京都市文化観光局 1995年	93-HL380
立16	九条三坊九町	平安中の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 平成2年度』京都市文化観光局 1991年	90-HL17
立17	九条三坊九町	鎌倉末・室町初の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成14年度』京都市文化市民局 2003年	02-HL278
立18	九条三坊九町	鎌倉前、室町前・中・後の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』京都市文化市民局 2001年	00-HL213
試19	九条三坊十町	室町前の土坑墓・土坑・南北溝・柱穴	『京都市内遺跡試掘調査概報 平成11年度』京都市文化市民局 2000年	
立20	九条三坊十町	平安中の遺物包含層、鎌倉前～後の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成16年度』京都市文化市民局 2005年	04-HL62

番号	条坊地点	検出遺構・出土遺物等	文 献	調査No.
立21	九条三坊十町	鎌倉の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年	85-HL8
立22	九条三坊十一町	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和60年度』京都市文化観光局 1986年	85-HL120
立23	九条三坊十二町	平安後の落込み・遺物包含層、室町・江戸の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年	97-HL247
立24	九条三坊四町～四坊四町、九条大路	弥生の遺物包含層、室町の井戸・土坑、近世の九条大路側溝	『昭和60年度 京都市埋蔵文化財調査概要』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1988年	
立25	九条三坊十三町	平安後～鎌倉の落込み・遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成8年度』京都市文化市民局 1997年	96-HL262
立26	九条三坊十三町	平安～室町の遺物包含層・土坑、弥生土器出土	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和57年度』京都市文化観光局 1988年	82-HL25
立27	九条三坊十四町	室町の遺物包含層、時期不明の土坑	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和62年度』京都市文化観光局 1988年	87-HL225
立28	九条三坊十四町	平安後の湿地状堆積	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成22年度』京都市文化市民局 2011年	09-HL211
試29	九条三坊十四町	鎌倉の湿地状堆積	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和59年度』京都市文化観光局 1985年	84-HL161
立30	九条三坊十四町	鎌倉～室町の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成7年度』京都市文化市民局 1996年	95-HL303
立31	九条三坊十五町	平安末の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘、立会調査概報 昭和56年度』京都市文化観光局 1982年	81-HL106
立32	九条三坊十五町	平安後～鎌倉の土坑、鎌倉の落込み、時期不明の柱穴	『京都市内遺跡立会調査概報 平成12年度』京都市文化市民局 2001年	99-HL420
立33	九条三坊十六町	平安～室町の遺物包含層	『平安京左京八条大路跡 八条通地下横断歩道建設に伴う立会調査概報 昭和55年度』(財)京都市埋蔵文化財研究所 1981年	
立34	九条四坊二町	室町の遺物包含層	『京都市内遺跡試掘立会調査概報 昭和61年度』京都市文化観光局 1987年	86-HL87
立35	九条四坊三町、東洞院大路	中世の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成17年度』京都市文化市民局 2006年	05-HL22
立36	九条四坊三町、東洞院大路	中世の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査報告 平成20年度』京都市文化市民局 2009年	07-HL373
立37	九条四坊三町、東洞院大路	平安後の土坑、室町前の遺物包含層、下層は湿地堆積	『京都市内遺跡立会調査概報 平成9年度』京都市文化市民局 1998年	97-HL44
立38	九条四坊四町、東洞院大路	鎌倉の遺物包含層	『京都市内遺跡立会調査概報 平成13年度』京都市文化市民局 2002年	01-HL26
立39	九条四坊四町	平安後の落込み	『京都市内遺跡詳細分布調査報告 平成23年度』京都市文化市民局 2012年	11-HL25
立40	九条四坊四町、九条大路	弥生～古墳・平安後の遺物包含層、鎌倉後～室町の遺物包含層・落込み	『京都市内遺跡立会調査概報 平成10年度』京都市文化市民局 1999年	97-HL381

室町時代以降 建物（調査15・21）や井戸（調査1・2・5・8・9・15・22～24）などを検出するが、遺構の数は減少する。さらに、耕作溝（調査1・2・5～7・9～11・13～16・19～21）などがみられるようになる。

このように平安遷都以降の調査地周辺では、平安時代前期から中期にかけての遺構の密度が低いことがわかる。これは、後世にこれらの遺構が削平された可能性も考えられる。しかし、平安時代前期から中期にかけて、調査地周辺では流路や窪地の検出事例が多いことや、文献史料が希薄であることから、平安遷都後しばらくは積極的な土地利用がみられなかったと指摘できる。平安時代後期になると徐々に遺構の数は増加してゆき、特に平安時代末期から鎌倉時代にかけて、建物・井戸・池などの邸宅関連の遺構が多くみられることから、左京の八条・九条周辺に邸宅が増加したことがわかる。また、これらの邸宅には仏堂を有するものが多いことも文献史料からうかがえる。しかし、平安時代後期から鎌倉時代にかけて遺構密度の高かった調査地周辺も、室町時代になると検出した遺構の数は急激に減少し、調査地周辺は耕作地化したようである。

註

- 1) 横山卓夫「京都盆地の自然環境」『平安京提要』角川書店 1994年
- 2) 石田志郎「京都盆地北部の扇状地 -平安遷都時の京都の地勢-」『古代文化』34巻12号 1982年

3. 遺 構

(1) 基本層序 (図版4・5、図6)

調査地の現地表面は標高25.1~25.4mで、調査地内で若干の起伏があるものの、ほぼ平坦である。

基本層序は、現地表面から現代盛土(厚さ0.4~0.7m)、近現代から近世の耕作土(厚さ0.3~0.4m)、中世耕作土(厚さ0.1m)、鎌倉時代前半の整地層(厚さ0.1~0.3m)、平安時代中期の整地層(0.1~0.3m)、基盤層となる。鎌倉時代前半の整地は、2回行われている。1回目の整地層は暗灰黄色の粘質土で局所的な確認に留まる。2回目の整地層は黒褐色砂泥や褐灰色砂泥で炭や土器片を多く含む。平安時代中期の整地層は、黒褐色シルトで土器片をわずかに含む。基盤層は黄褐色砂礫である。弥生時代から古墳時代までの土器をわずかに含む。この層は二次堆積層のため今回はこの上面を調査対象とし、断割りで遺構がないことを確認した。

基本的には、中世耕作土上面を第1面、鎌倉時代前半の整地層上面を第2面、基盤層上面を第3面として遺構面の調査を行った。

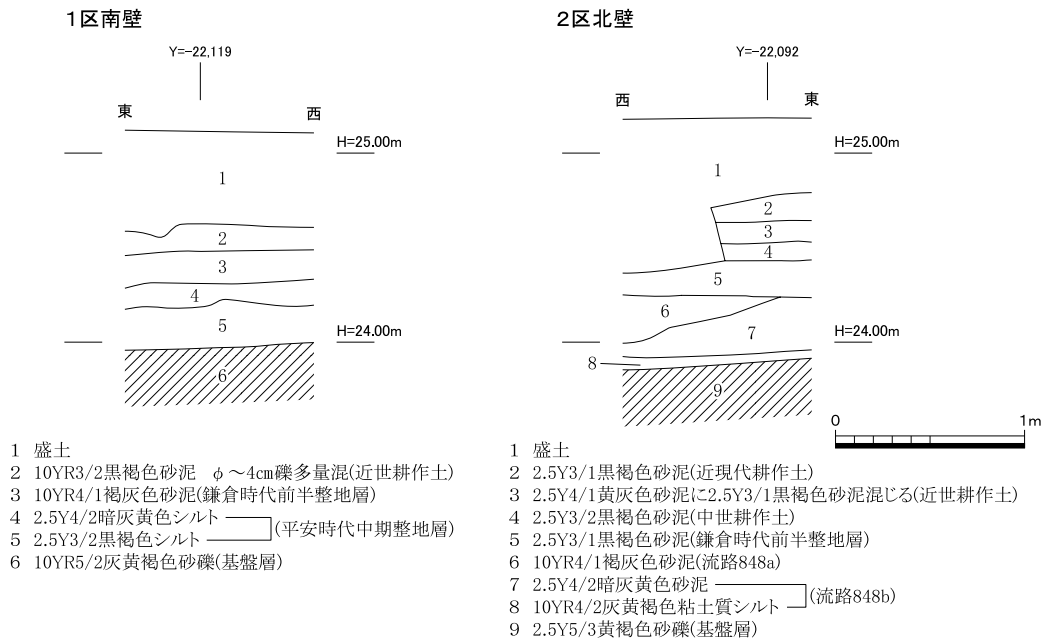


図6 基本層序断面図(1:40)

表3 遺構概要表

時 代	遺 構	
	1 区	2 区
平安時代	流路247・249	流路848、平坦面684・894、素掘り溝群
鎌倉時代前半	掘立柱建物(建物1~3)、 柵1~3、 井戸41・44、土坑5	礎石建物(建物4)、掘立柱建物(建物5)、地業782、 柵4・5、井戸571・600・603・700・787・801・883、 土坑598・714、柱穴777・829・830、道路640
鎌倉時代後半以降	素掘り溝群	素掘り溝群

(2) 1区

1) 第3面の遺構 (図版1・19)

流路を基盤層上面で検出した。流路の埋土には古墳時代から10世紀の遺物を含む。

流路249 北半で検出した北西から南東方向の流路である。検出長は13m、幅1～2m、深さ0.2～0.3mである。

流路247 南半で検出した北西から東方向の流路である。検出長は12m、幅2.4～6m、深さ0.3～0.4mである。埋土から京都Ⅲ期¹⁾の土器が出土した。

2) 第2面の遺構 (図版2・19)

平安時代中期の遺物を含む整地層(図版4-東壁16層・南壁16層)上面で遺構を認識したが、埋土や調査区断面、出土遺物の検討の結果、遺構は鎌倉時代前半の遺物を含む黒色の整地層(図版4-東壁14層・南壁13層)上面で成立する。

調査区東端で南北方向の柵、南半部で掘立柱建物3棟・柵・井戸・溝・土坑・多数の柱穴、北半部で少数の柱穴を検出した。

建物1(図版6・20) 調査区の中央部で検出した梁行1間(2.4m)、桁行3間(6.0m)の東西棟の掘立柱建物である。方位はほぼ正方位。柱間は梁行約2.4m、桁行約2.0mである。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.3～0.4m、深さ約0.15～0.2mである。柱痕から推測できる柱径は0.15～0.2mである。

建物2(図版7・20) 調査区中央部で検出した梁行2間(3.8m)、桁行3間(6.4m)の東西棟の総柱掘立柱建物である。建物1と重複関係にあり、建物1に先行する可能性がある。方位はほぼ正方位。柱間は梁行が北から約2.0m・1.8m、桁行約2.1mである。柱穴の掘形は円形で、その規模は径約0.3～0.4m、深さ約0.1～0.2mである。柱痕から推測できる柱径は0.15～0.2mである。地下式礎石が残る柱穴もある。

建物3(図版8) 調査区南部で検出した梁行1間(2.1m)、桁行2間(4.6m)の東西棟の掘立柱建物である。方位はほぼ正方位。柱間は梁行約2.1m、桁行は西から2.4m・2.1mである。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.4～0.5m、深さ約0.15～0.2mである。柱痕から推測できる柱径は0.1～0.15mである。

柵1(図版9) 建物3の南側で検出した東西方向の柵である。方位はほぼ正方位。柱間は1.8～2.2mの不等間隔である。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は、径約0.2～0.35m、深さ約0.1mである。柱痕から推測できる柱径は0.2～0.35mである。柱穴106と107、110と168、168と169の柱間は非常に狭く、何度かの建て替えがなされたと想定できる。

柵2(図版10・20) 調査区東端で検出した南北方向の柵である。10間分(22m)を検出した。南北方向ともに調査区外に延びる可能性がある。柱穴220と199の中間に位置する柱穴は攪乱されている可能性が高い。方位はほぼ正方位。柱間は1.4～2.9mの不等間である。柱穴の掘形は円形や

楕円形・不定形で、その規模は径約0.3～0.6 m、深さ約0.2～0.3 mである。柱痕から推測できる柱径は0.1～0.25 mである。

柵3 (図版9・20) 柵2西側で検出した南北方向の柵である。方位はほぼ正方位。柱間は1.0～2.1 mの不等間である。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.3～0.7 m、深さ約0.2～0.3 mである。柱痕から推測できる柱径は0.15～0.25 mである。

井戸41 (図版16・20) 建物3と柵1の間で検出した。井戸枠には須恵器甕を転用する。須恵器甕の底部には直径0.1 m程度の穿孔し、正位に据える。掘形の平面形は不定形で、その規模は南北0.7 m、東西0.8 mである。深さは0.4 mあり、底部の標高は23.80 m。須恵器甕の底部と掘形の底部のレベルはほぼ一致する。

井戸44 建物1と建物2の間で検出した。西側は調査区外となる。平面形は円形で、その規模は径2.3 mである。深さは0.9 mあり、底部の標高は23.35 m。井戸枠は遺存しておらず、土層断面の観察においても、その痕跡を確認することはできなかった。埋土から京都Ⅵ期新段階の土器が出土した。

土坑5 調査区の南東隅で検出した。平面形は不整形で、その規模は南北3.6 m、東西3.8 mである。深さは0.9 mあり、底部の標高は23.30 m。井戸の可能性もあるが、土層断面などの観察からは井戸枠を確認することはできなかった。埋土から京都Ⅵ期新段階の土器が出土した。

3) 第1面の遺構 (図版3・19)

素掘り溝群 調査区のはほぼ全域で検出した。東西・南北方向に正方位の溝である。耕作に伴う溝と考えられる。幅0.2～0.4 mである。溝内から出土する遺物は室町時代の土器片が多い。

(3) 2区

1) 第3面の遺構 (図版1・21)

調査区中央部で流路、西部で平坦面、その間をうめるように素掘り溝を基盤層上面で検出した。

流路848 (図7) 調査区北半中央部で検出した北西から南東方向の流路である。流路は新(848 a)旧(848 b)2時期に分けることができ、変遷していった様子が断面から観察できる。848 bから848 aに変化する際には10世紀の遺物を含む平安時代の整地土を施す際に人為的に埋めたものと判断した。848 aでは埋土の観察から流水していた様子がうかがえる。848 aは、幅3.0～3.7 m、深さ0.3～0.5 mである。848 bは幅5.1～7.5 m、深さ0.4～0.5 mである。ともに底面の凹凸はほとんどみられない。今回の調査地の南東側に位置する左京九条三坊十町(図5-調査16)で検出した流路の延長線上にあたり、連続する流路と判断できる。京都Ⅲ期の土器が出土した。

平坦面684・894 調査区西部で検出した平坦面である。平面形はL字状を呈する。西辺は約30度西へ傾き、流路848とおおよそ平行し、ひな壇状を呈する。検出長21 m、検出幅12 m、深さ0.1 mである。X=-112,772付近では畔の高まりを検出した。埋土から京都Ⅲ期の土器が出土した。

素掘り溝群 流路848の両側で流路に対して平行ないしは直交する多数の耕作溝を検出した。幅

0.3～0.4 m、深さ0.1 mである。埋土から京都Ⅲ期に位置づけられる土器が出土したが、細片のため図化できなかった。

2) 第2面の遺構 (巻頭図版1、図版2・22・23)

鎌倉時代前半の遺物を含む黒色の整地層 (図版5 - 西壁28層・北壁29層) 上面で検出した遺構群である。北半中央部で礎石建物や掘立柱建物、南半南端部で柵や道路、西部で井戸、多数の柱穴を検出した。第2面では局所的に確認できた灰色の整地層 (図版5 - 西壁29層) 上面で成立する遺構の調査も行った。

建物4 (図版12・13・23) 調査区北半中央部で検出した南北5間 (11.0m)、東西5間 (12.4m) の礎石建物である。柱穴掘形 (礎石据付穴) 内には拳大の礫が充填されていた。礎石は後世の削平などの影響により残っていなかった。身舎の四方に庇がつく建物を想定している。方位はほぼ正方位。身舎は南北3間 (6.0m)、東西3間 (7.2m)。身舎の柱間は、南北が北から2.4m・1.8m・1.8m、東西が2.4mの等間隔で、南から2間分の幅が狭くなる。庇の柱間は、東・南・北が2.5m、西が2.7mで、西側のみがやや広い。柱穴の掘形は円形や楕円形・隅丸方形を呈し、大きさは径0.5～0.9m、深さ0.2～0.3mである。根固め石は、柱穴718や721などの様に石材が数段分厚く残るところと、柱穴805や808のように薄いところがある。

地業782 (図版14・24) 調査区北半中央部で検出した。建物4と重複し、充填された砂礫を除去した段階で柱穴823 (建物4) を検出した。そのため、柱穴823の後に地業を行っている。地業782の範囲は、身舎から建物の外側にかけて広がっており、建物4に関連する施設と捉えることができる。残存状況はやや良好で、後世の素掘り溝による掘込みにより部分的に寸断されている。平

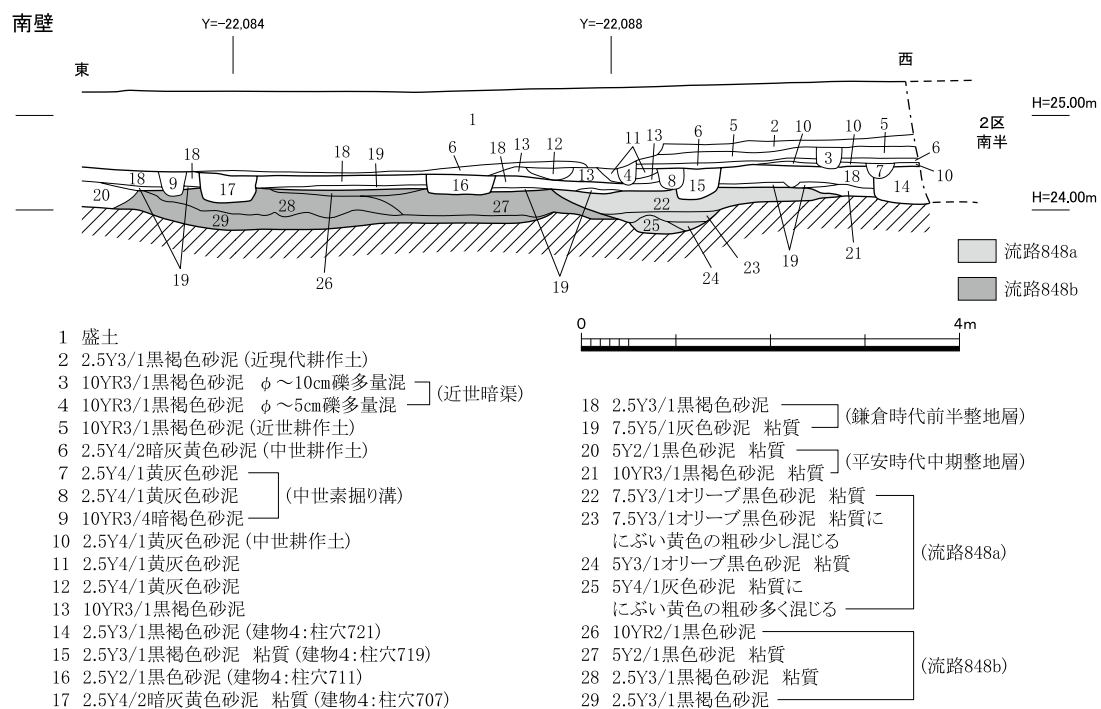


図7 2区北半南壁断面図 (1:80)

面形は長方形で東西方向に長く、その規模は南北1.7m、東西5.0m、深さ0.25mである。掘込内に拳大の礫と砂を充填する。充填した砂礫は、掘形内で収まるところと、掘形の外側にまで広がる場所がある。掘形の側面を木の板と杭で護岸状に整え、砂礫を充填していることから、湿気抜きとして機能した可能性が考えられる。

建物5 (図版11) 調査区北半中央部で検出した梁行2間(4.0m)、桁行3間(5.8m)の南北棟の掘立柱建物である。方位はほぼ正方位。建物4と重複する。柱間は梁行約0.8~1.6m、桁行0.8~2.9mの不等間である。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.2~0.5m、深さ約0.1~0.3mである。柱痕から推測できる柱径は0.15mである。地下式礎石をもつ柱穴766・763もあり、大きさ0.2m程度の扁平な石材を用いる。柱穴767は柱痕の周囲を拳大の礫で固める。残りが悪いため、正確な建物の形や規模を確認することはできなかったが、建物4に後続する建物があったと考えられる。

柵4 (図版15・25) 道路640の北側で検出した東西方向の柵である。8間分(10.9m)を検出した。方位はほぼ正方位。柱間は1.0~1.4mの不等間である。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.3~0.4m、深さ約0.1~0.4mである。柱痕から推測できる柱径は0.1~0.15mである。

柵5 (図版15・25) 柵4と直交する南北方向の柵である。5間分(7.7m)を検出した。方位はほぼ正方位。柱間は0.9~2.1mの不等間である。柱穴の掘形は円形や楕円形で、その規模は径約0.3~0.4m、深さ約0.1~0.3mである。柱痕から推測できる柱径は0.15mである。

井戸600 (図版16・26) 調査区南半西部で検出した。井戸枠には須恵器甕を転用する。掘形の平面形は楕円形で、その規模は南北1.0m、東西0.8mである。深さは0.5mあり、底部の標高は23.70m。須恵器甕は逆位にして据える。内法の直径は0.35m。井戸の底に水溜は確認できなかった。

井戸603 (図版16) 調査区南半北西部で検出した小型の井戸である。掘形の平面形は楕円形で、その規模は南北0.65m、東西0.65mである。深さは0.3mあり、底部の標高は23.90m。井戸枠には直径0.4mの曲物を用いる。井戸の底に水溜は確認できなかった。

井戸700 (図版16) 調査区北半西端で検出した。掘形の平面形は円形で、その規模は直径3.0mである。深さは1.0mであり、底部の標高は23.05m。掘形の断面は2段掘り状を呈し、標高23.5mより上部は広く播鉢状に掘り窪め、下部は井戸枠部分をやや垂直に掘り込む。井戸枠は方形を呈するが、最下部がわずかに残存するのみで、全体の構造を把握することはできなかった。井戸枠材の樹種はヒノキ。規模は内法で0.75mである。底には円形の水溜が掘り込まれる。規模は直径0.35mである。水溜の掘形がほぼ垂直に立ち上がることから、曲物が据えられていた可能性がある。本調査において検出した井戸の中では、掘形の規模が最も大きく、深く掘られている。枠内からは京都VI期古~中段階にかけての土器群が出土した。

井戸801 (図版17・26) 調査区北半中央部で検出した。地業782の礫を除去した段階で検出した。掘形の平面形は楕円形で、その規模は南北1.8m、東西2.0mである。深さは2.0mあり、底部の標高は23.30m。円形縦板組の井戸枠の規模は内法で直径0.75m。底には円形の水溜が掘り込まれる。規模は直径0.5mである。枠材の部材はほぼ不朽してしまっているが、わずかに残る痕跡か

ら、20～23枚の板材が用いられた様子が観察できる。井戸枠内は、人頭大の礫で充填されており、意図的に埋め戻したものと考えられる。

井戸883 (図版17) 井戸801の東側で検出した。掘形の平面形は隅丸方形で、その規模は南北1.7m、東西1.6mである。深さは0.75mあり、底部の標高は23.25m。井戸枠の規模は内法で一辺0.65mである。枠材は横棧とみられる痕跡のみが観察できた。底には円形の水溜が掘り込まれる。大きさは直径0.35mである。

井戸787 (図版17・26) 調査区北半南端部で検出した。掘形の平面形は楕円形で、その規模は南北2.3m、東西2.0mである。深さは1.1mあり、底部の標高は23.30m。方形縦板横棧組の井戸枠の規模は内法で一辺0.75mである。枠材の残存状況は、南側のみが良好で、4枚の縦板と3段の横棧を確認できた。井戸枠材は縦板・横棧ともに樹種はスギ。井戸の底に水溜は確認できなかった。

井戸571 (図版17・26) 調査区南半東壁際で検出した。東側は調査区外となる。井戸枠には常滑の大甕を転用する。掘形の平面形は円形で、その規模は直径1.8mである。深さは0.9mあり、底部の標高は23.45m。掘形底部から3～4石人頭大の礫を積み上げ、その上に甕を正位で置く。甕の底部は井戸に利用するため打ち欠かれる。井戸底部には水溜の曲物を2段に据える。規模は上段が直径0.3m、下段が直径0.25mである。

柱穴777 (図版24) 調査区北半中央部で検出した。掘形の平面形は円形で、その規模は直径0.6m、深さ0.3mである。掘形の底には地下式礎石を据える。礎石の規模は、長さ20cm、幅10cm、厚さ10cmである。礎石上には柱痕が残る。柱径は0.15mである。

柱穴829 (図版24) 調査区北半西端部で検出した。柱穴830を掘り込む。掘形の平面形は円形で、その規模は直径0.4m、深さ0.15mである。掘形内に地下式礎石を3段分据える。礎石の規模は、長さ20～25cm、幅15～20cm、厚さ4～8cmである。

柱穴830 (図版24) 調査区北半の柱穴829北側で検出した。柱穴829に掘り込まれる。掘形の平面形は円形で、その規模は直径0.35m、深さ0.1mである。

土坑598 調査区南半西端部で検出した。西側は調査区外となる。掘形の平面形は円形で、その規模は直径2.8mである。深さは0.6mあり、底部の標高は23.30m。大きさや形状などから井戸の可能性も考えられるが、断面観察でも井戸枠の痕跡を確認することはできなかった。

土坑714 調査区北半中央部で検出した。建物4の柱穴710を掘り込む。掘形の平面形は円形で、その規模は直径0.6m、深さ0.35mである。埋土から京都VI期新段階の土器群が出土した。

道路640 (巻頭図版2、図版18・25) 調査区南半南端部で検出した。東西方向に延びる道路構築土と北側溝を確認した。路面自体は後世の削平により残存していなかった。南・東・西側は調査区外となる。鎌倉時代前半の整地層上面を掘り込んで構築される。検出した規模は東西長11m、南北幅2.5mである。道路構築土は大きく上下2層に分けることができ、下層には粘性のある土を用いる。土には木片や木くずなどを多く含むところもある。上層には、拳大の礫を山状に積み上げる。溝593は北側溝に相当する。北側溝は、その埋没状況から2時期に分けることができる。後出する溝をa (図版18-東壁1・2層や西壁1層)、先行する溝をb (図版18-東壁3・4層や西壁

4. 遺 物

調査では遺物収納コンテナで101箱の遺物が出土した。出土遺物には土器・陶磁器類、瓦類、金属製品、銭貨、ガラス、骨がある。土器・陶磁器類が最も多く約9割以上を占める。遺物を時期的にみると鎌倉時代前半の遺物が大半を占め、次いで平安時代中期となる。

以下では主要な遺構から出土した遺物について種別ごとに概要を述べる。

(1) 土器類 (図8～12、図版27、附表1)

1区土坑5出土土器 (図8、図版27 1～11) 土師器、瓦器、須恵器、焼締陶器、輸入陶磁器が出土した。時期は京都VI期新段階である。

1～6は土師器皿である。1～5は小型で、口径8.1～11cmである。3の内面には、ヘラ状工具による線刻がある。6は大型で、口径12cmである。7～10は瓦器である。7は土師皿Ac状を呈する。8は台付き椀である。口径6.5cm、高さ3.1cmである。底部内面に暗文がある。9は椀で、口径14cmである。底部内面に暗文がある。10は盤で、口径47cm、器高9.3cmである。外面はオサエ、内面はミガキにより調整する。11は輸入陶磁器の青白磁壺である。口径3.8cm、残存高2.5cmである。肩部に花文を施す。

2区井戸700出土土器 (図9、図版27 12～29) 土師器、白色土器、瓦器、須恵器、焼締陶器、輸入陶磁器が出土した。時期は京都VI期古～中段階である。

12～23は土師器皿である。12は土師皿Acである。13～20は小型で口径8.7～9.3cmである。21～23は大型で、口径13～14.2cmである。24は白色土器の高杯で、残存高17.9cmである。柱状部外面はヘラケズリ。内面には心棒作りの痕跡が明瞭に残る。25・26は瓦器である。25は皿で、口径9.1cmである。26は椀で、口径15.4cmである。底部内面に暗文がある。27～29は輸入陶磁器である。27は白磁椀である。残存高2.9cm、底径5.6cmである。見込みに花文がある。28も白磁椀で、底径

表4 遺物概要表

時代	内容	コンテナ箱数	Aランク点数	Bランク箱数	Cランク箱数
平安時代	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦類		軒丸瓦9点、軒平瓦17点		
鎌倉時代前半	土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、銭貨、ガラス、石製品、動物遺存体		土師器31点、白色土器1点、瓦器17点、須恵器3点、灰釉陶器3点、焼締陶器3点、輸入陶磁器8点、銭貨1点、ガラス1点、石製品7点		
鎌倉時代後半以降	土師器、施釉陶器、輸入陶磁器		輸入陶磁器2点、銭貨1点		
合計		114箱	104点 (9箱)	2箱	103箱

※ コンテナ箱数の合計は、整理後、遺物を抽出したため、出土時より13箱多くなっている。

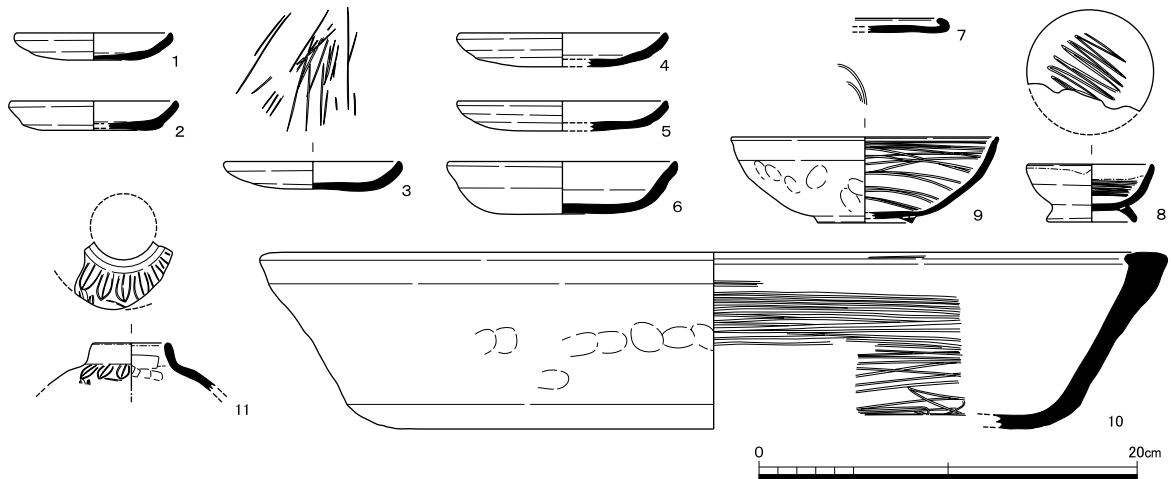


図8 1区出土土器実測図(1:4)

5.6cmである。内面に花文・櫛描文を施す。29は鉄釉の皿である。釉の発色が赤みのかかった茶色であることから柿釉とも呼ばれる。残存高2.4cmである。底部のみ無釉である。

2区地業782出土土器(図9、図版27 30~39) 土師器、瓦器、須恵器、灰釉陶器が出土した。時期は京都VI期新段階である。

30~32は土師器皿である。30・31は小型で、口径8.2~9.0cmである。32は大型で、口径13.6cmである。33~37は瓦器である。33は皿で、口径8.8cmである。底部内面には暗文がある。34は椀で、口径14.1cmである。35は羽釜、36は鍋、37は盤である。38は東播系須恵器の鉢である。39は灰釉陶器の片口皿である。焼成不良の影響により、底部内面中央が凹む。

2区土坑714出土土器(図9 40~43) 土師器、瓦器が出土した。時期は京都VI期新段階である。

40~42は土師器皿である。40は小型で、口径8.6cmである。41・42は大型で、口径13~14.4cmである。43は瓦器の椀で、口径13.7cmである。底部内面に暗文がある。

2区道路640出土土器(図9 44・45) 44と45は瓦器の羽釜である。

2区井戸787出土土器(図9 46~56) 土師器、瓦器、須恵器、灰釉陶器、焼締陶器が出土した。時期は京都VI期新段階である。

46~50は土師器皿である。46~49は小型で、口径7.7~8.1cmである。50は大型で、口径12.8cmである。51~53は瓦器である。51は羽釜、52は鍋、53は盤である。54は東播系須恵器の鉢である。55は山茶椀鉢である。56は焼締陶器で、常滑産甕の口縁部片である。

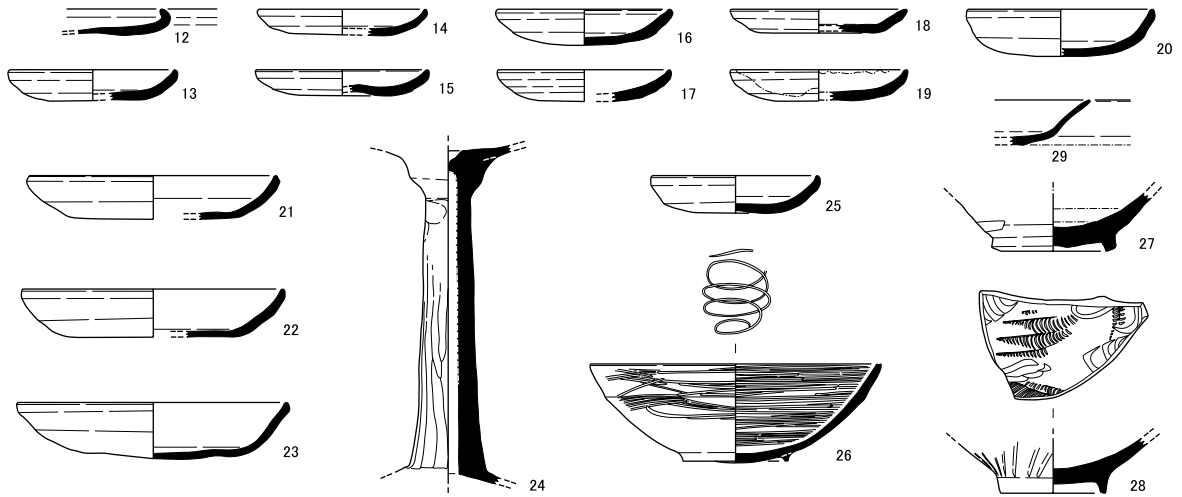
2区井戸571出土土器(図9 57・58) 土師器が出土した。時期は京都VII期古段階である。

57・58は土師器皿である。57は赤色系の土師器皿で大型品である。口径は11.6cmである。58は白色系の土師器皿で、口径は10.7cmである。

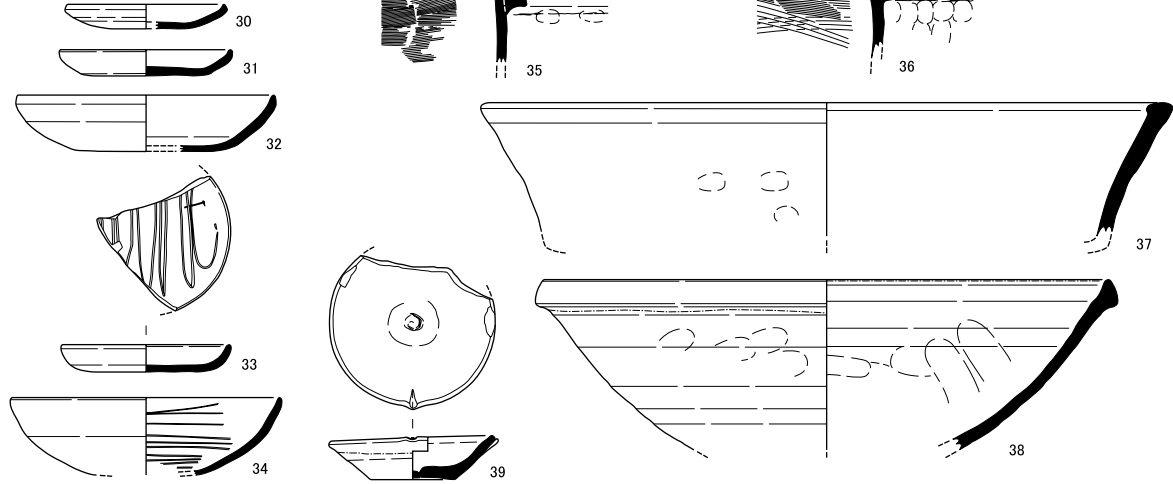
井戸枳転用甕(図10、図版27 59~61) 井戸枳として転用されていた甕である。

59は1区井戸41に利用されていた東播系須恵器の甕である。底部は打ち欠かれる。口径31.8cm、残存高47.8cmである。

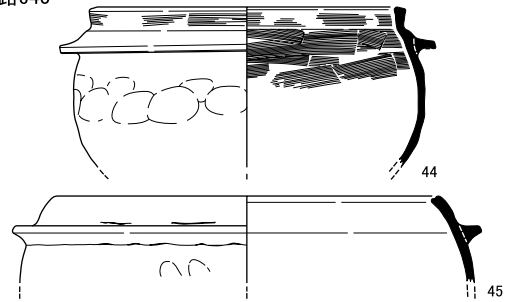
井戸700



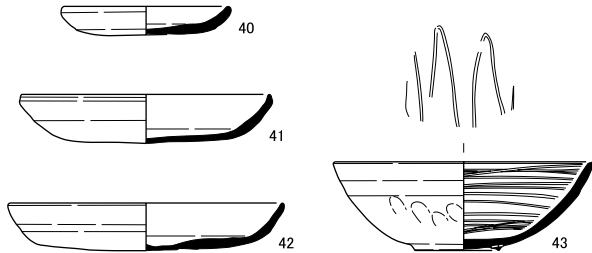
地業782



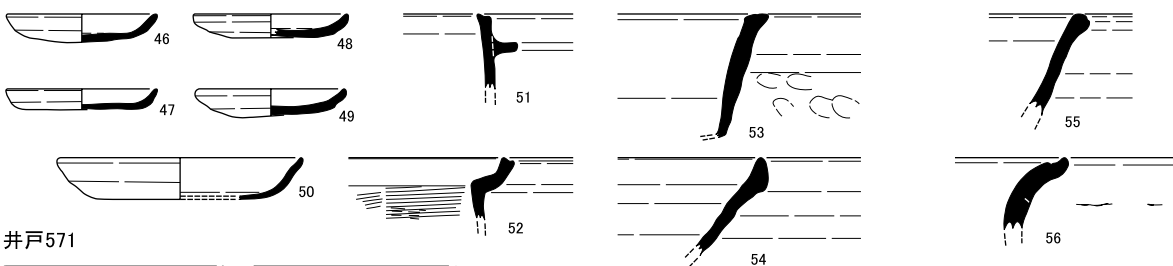
道路640



土坑714



井戸787



井戸571

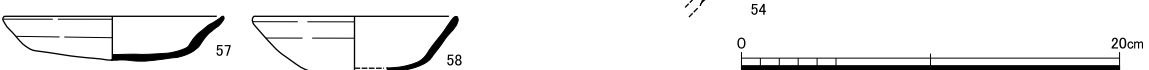
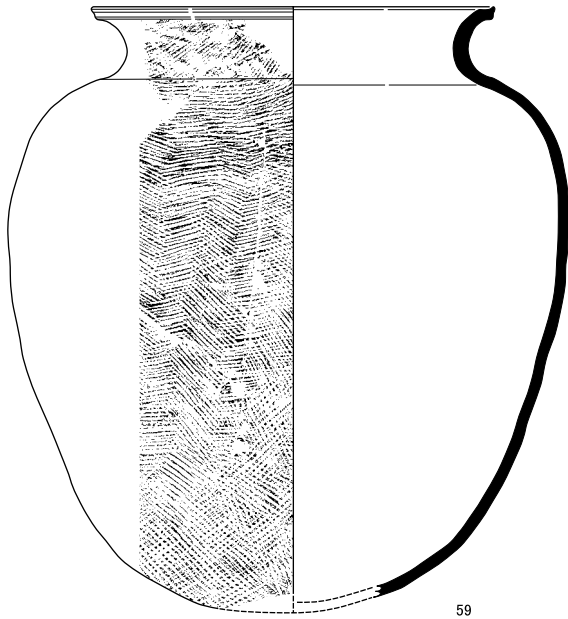
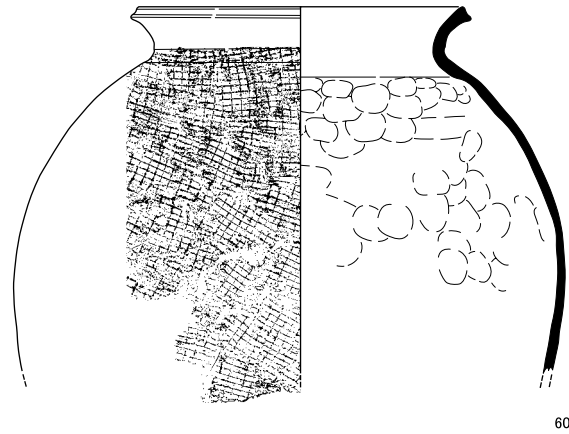


图9 2区出土土器实测图(1:4)

井戸41



井戸600



井戸571

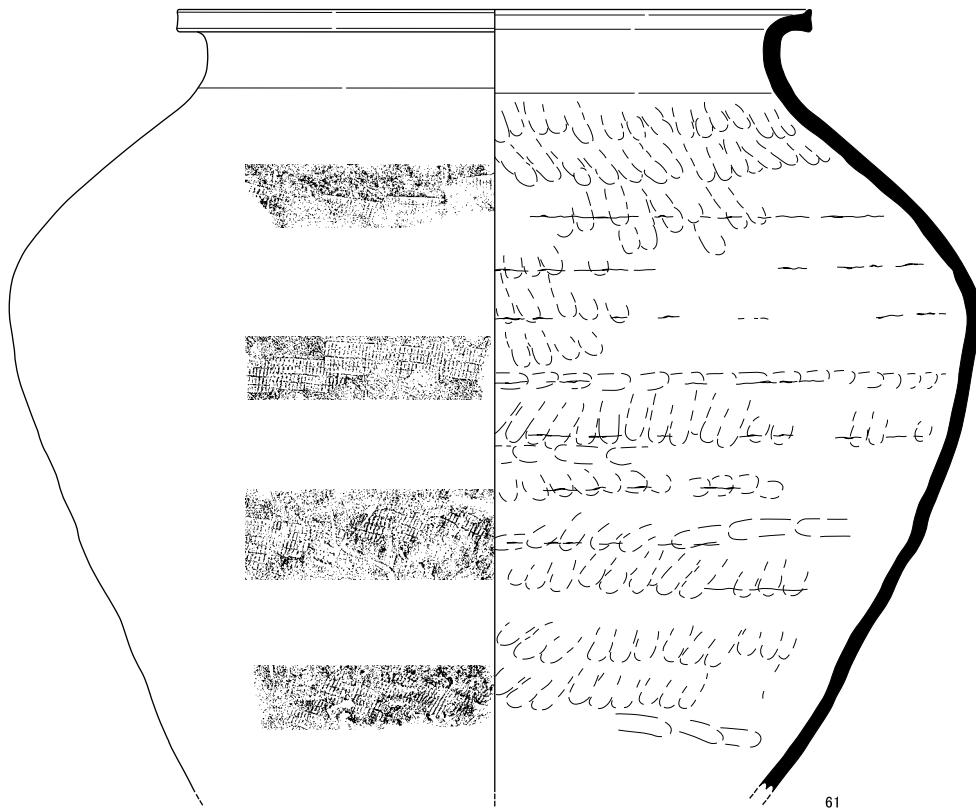


図10 井戸粹転用甕実測図 (1 : 6)

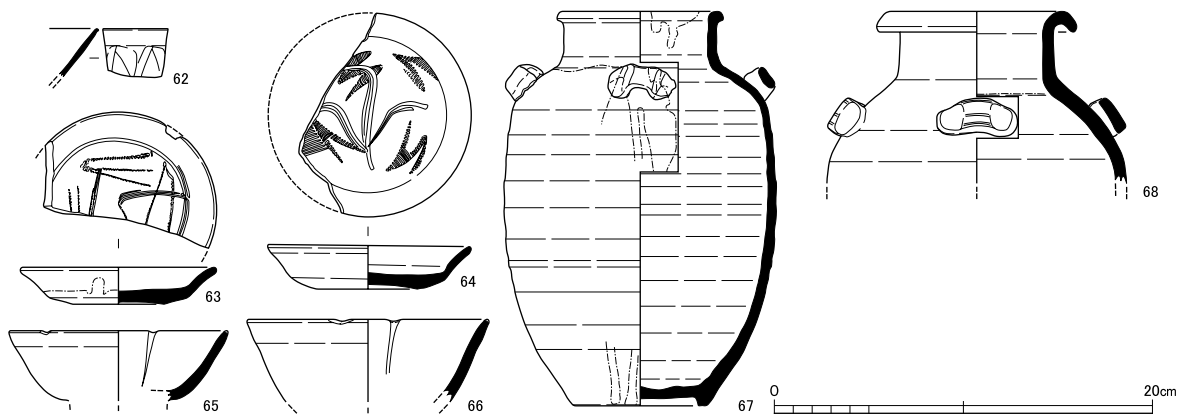


図11 その他の遺構出土土器実測図（1：4）

60は2区井戸600に利用されていた須恵質の甕である。底部は打ち欠かれる。口径25.7cm、残存高29.1cmである。外面に格子目タタキを施す。亀山焼の可能性はある。

61は2区井戸571に利用されていた焼締陶器で常滑産の大甕である。底部は打ち欠かれる。口径50.2cm、残存高62.1cmである。

その他の遺構出土土器（図11、図版27 62～68）62は輸入陶磁器の白磁椀である。2区の整地層から出土した。体部外面に片切彫りによる花文を施す。口縁端部がわずかに膨らむ。

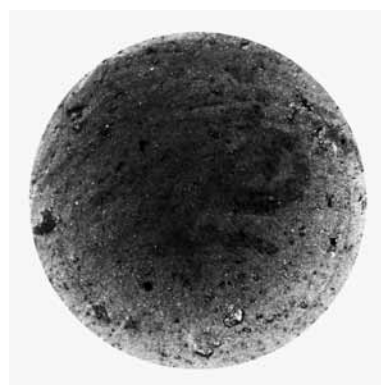


図12 青磁皿（64）底部の墨書

63は輸入陶磁器の同安窯系青磁皿である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。内面底部に片切彫りと櫛描文を施す。

64は輸入陶磁器の同安窯系青磁皿である。2区第1面の素掘り溝群から出土した。内面底部に片切彫りと櫛描文を施す。外面底部に墨書が残る（図12）。墨書の残りが悪く不鮮明ではあるが、「応」の可能性¹⁾がある。

65と66は輸入陶磁器の青磁椀である。2区第1面の素掘り溝群から出土した。口縁は輪花状を呈する。

67は輸入陶磁器の褐釉四耳壺である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。口径8.2cm、器高20.9cmに復元できる。体部外面には回転ヘラケズリの痕跡が明瞭に残る。

68は灰釉陶器の四耳壺である。2区第2面検出中に出土した。体部下半を欠損する。口径9.0cmである。

（2）瓦類（図13・14）

瓦類は、軒丸瓦、軒平瓦、丸瓦、平瓦が出土した。出土した瓦の時期は平安時代後期である。鎌倉時代前半の整地層から出土したものが大半で、柱穴や土坑などの遺構に伴って出土した量は少ない。遺構に伴う場合も一定数がまとまって出土することはなく、多くても数点程度の出土であっ

た。産地は、山城・播磨・讃岐があり、和泉と考えられるものもある。山城産が大半を占める。

軒丸瓦（図13） 瓦1は複弁六葉蓮華文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦2は蓮華文軒丸瓦である。2区第2面の柱穴656から出土した。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は4mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦3は単弁八葉蓮華文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当裏面はナデ、丸瓦凸面は縦方向のナデ、凹面は布目が残る。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は5mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦4は単弁六葉蓮華文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。中房には蓮子を配置しない。瓦当側面はナデ、裏面には縄タタキを施す。焼成は須恵質で、色調は外面・断面ともに灰色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。讃岐産。

瓦5は複弁八葉蓮華文軒丸瓦である。2区第1面の素掘り溝群から出土した。瓦当側面から裏面にかけては横方向のナデを施す。焼成はやや硬質で、色調は外面が灰白色、断面は黒色である。胎土は比較的精良で、0.5mmまでの黒色砂粒をわずかに含む。時期は平安時代後期。産地不明。

瓦6は巴文軒丸瓦である。2区井戸571埋土から出土した。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに暗灰色である。胎土は1mmまでの白色砂粒を少量含

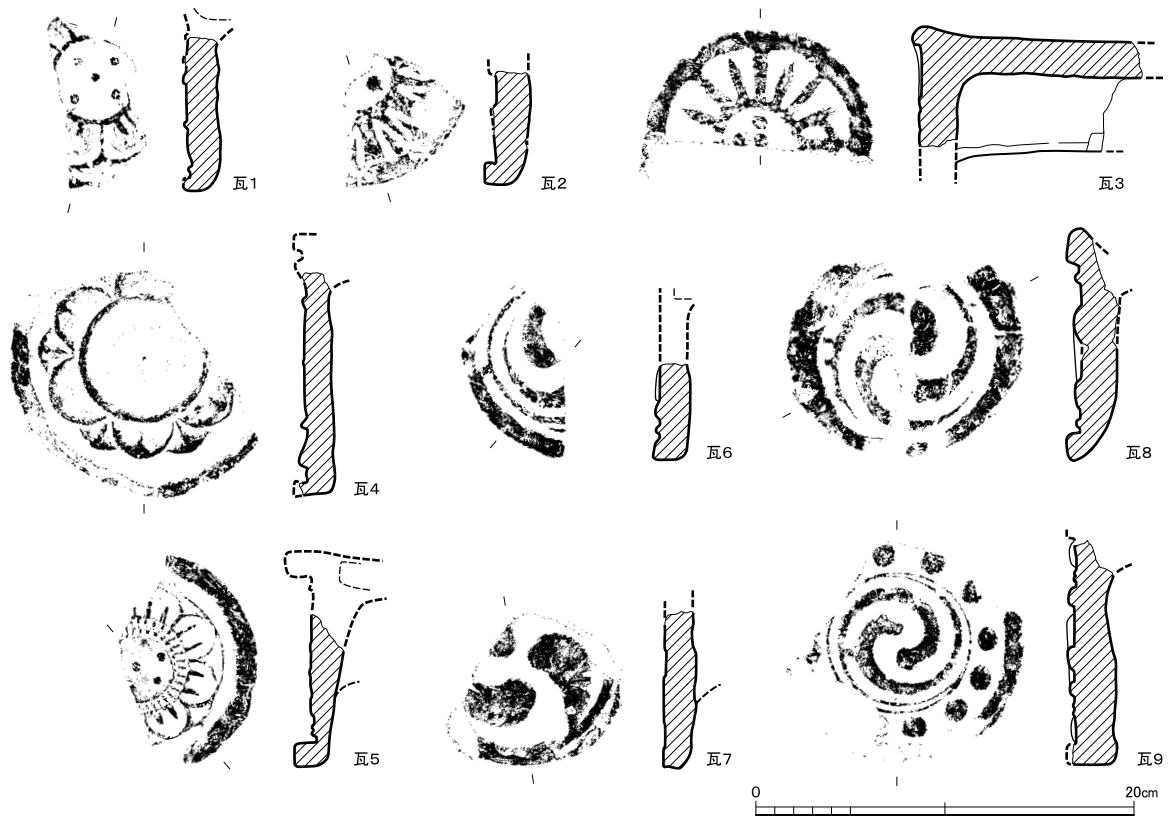


図13 軒丸瓦拓影及び実測図（1：4）

む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦7は巴文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。左巻き三巴の尾部は繋がって圏線状をなす。瓦当面はやや歪み、楕円形を呈する。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに暗灰色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦8は巴文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。右巻き三巴の尾部は繋がらない。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は5mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦9は巴文軒丸瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。右巻き二巴の尾部は長く伸び、界線に繋がる。外区には12の珠文を配置する。瓦当側面から裏面にかけてはナデを施す。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は5mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

軒平瓦(図14) 瓦10は唐草文軒平瓦である。2区重機掘削中に出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面から平瓦凸面にかけてはナデ、瓦当凹面は横方向のナデ、平瓦凹面は布目が残る。色調は外面・断面ともに黄褐色である。胎土は2.5mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦11は唐草文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当部成形は不明。瓦当凸面は横方向のナデ、裏面はナデを施す。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦12は唐草文軒平瓦である。1区柵2の柱穴155から出土した。瓦当部成形は不明。瓦当凸面は横方向のケズリ、裏面はナデを施す。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は1mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦13は唐草文軒平瓦である。1区第2面検出中に出土した。瓦当部成形は不明。瓦当凸面は横方向のナデ、凹面は布目が残る。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦14は剣頭文軒平瓦である。1区第2面の柱穴142から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面から平瓦凸面にかけてはナデ、瓦当凹面はケズリ、平瓦凹面は布目が残る。色調は外面・断面ともに黄灰色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦15は剣頭文軒平瓦である。1区第2面検出中に出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面から平瓦凸面にかけてはナデ、凹面は縦方向のナデを施す。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は2mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦16は剣頭文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面から平瓦凸面にかけてはナデ、瓦当凹面は横方向のケズリ、平瓦凹面はナデを施すが、布目が残る。色調は外面・断面ともに暗灰色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含

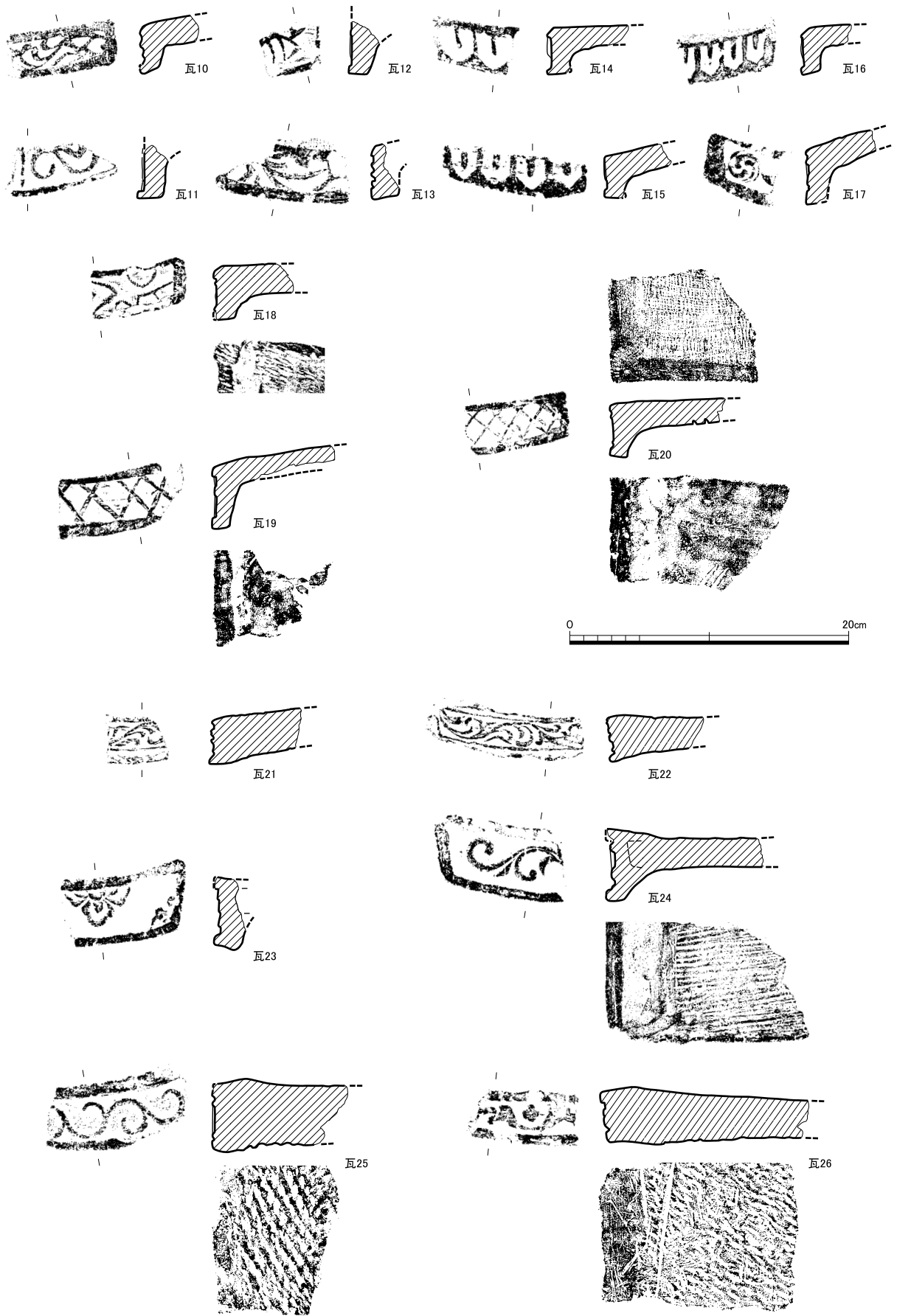


图14 軒平瓦拓影及び実測図 (1 : 4)

む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦17は雁巴文軒平瓦である。2区第1面の素掘り溝群から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面はケズリ、裏面から平瓦凸面にかけてはナデ、凹面は布目が残る。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は1mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦18は軒平瓦である。文様は、幾何学的で唐草文がくずれたものであろうか。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凹面は横方向のケズリ、平瓦凹面は布目、瓦当凸面と平瓦凸面は縄タタキ、裏面にはナデを施す。瓦当面には布目が残る。色調は外面・断面ともに黄灰色である。胎土は6mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦19は斜格子文軒平瓦である。2区第2面の柱穴768から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凸面は横方向のケズリ、裏面から平瓦凸面にかけてはナデを施す。凹面はナデを施すが、布目が残る。平瓦凸面にはヘラ記号がある。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は4mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦20は斜格子文軒平瓦である。1区の土坑5から出土した。瓦当部成形は折曲げ技法である。瓦当凹凸面は横方向のケズリ、裏面から平瓦凸面にかけてはナデを施す。平瓦凹面には編み物状の痕跡がある。平瓦凸面にはヘラ記号がある。色調は外面・断面ともに灰白色である。胎土は4mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。山城産。

瓦21は唐草文軒平瓦である。2区第2面の土坑521から出土した。顎部は直線顎。瓦当部成形は不明。凹凸面ともに横方向のハケ状工具によるナデ、瓦当凹面のみ横方向のナデを施す。色調は外面が赤褐色、断面は灰白色である。胎土は1mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。和泉産の可能性が考えられる。

瓦22は唐草文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。顎部は直線顎。瓦当部成形は不明。凹面は斜め方向のナデ、凸面には横方向のナデを施す。色調は外面・断面ともに黒灰色である。胎土は比較的精良で、0.5mmの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。和泉産の可能性が考えられる。

瓦23は半裁花文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当部成形は包込み技法である。瓦当凹凸面は横方向のナデ、裏面はナデを施す。色調は外面が暗灰色・断面が灰白色である。胎土は3mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。播磨産と考えられる。

瓦24は唐草文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。瓦当部成形は包込み技法である。平瓦は、瓦頭部のやや上に位置する。瓦当凸面から裏面にかけては横方向のナデ、平瓦凸面はタタキ、凹面はナデを施すが、布目が残る。焼成は須恵質で、色調は外面・断面ともに灰色である。胎土は2.5mmまでの白色砂粒を少量含む。時期は平安時代後期。播磨産と考えられる。

瓦25は唐草文軒平瓦である。2区道路640から出土した。顎部は直線顎。瓦当部成形は不明。瓦当凹凸面は横方向のナデ、平瓦凸面はタタキ、凹面は横方向のナデで布目が残る。焼成は硬質で、色調は外面・断面ともに黒灰色である。胎土は1mmまでの白・黒色砂粒を少量含む。讃岐産。

瓦26は唐草文軒平瓦である。2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。顎部は直線顎。瓦当部成形は不明。瓦当凹凸面は横方向のケズリ、平瓦凸面は縄タタキ、凹面は布目が残る。焼成は軟質で、色調は外面・断面ともに黄灰色である。胎土は2mmまでの白・黒色砂粒を少量含む。讃岐産。

(3) 銭貨 (図15)

銭1は渡来銭の政和通寶。北宋、初鑄は政和元年(1111)である。2区北半の第1面の素掘り溝から出土した。下半を欠損する。「政」「通」の二字のみが残存する。「政」の部首は「攴」でなく「支」となる。

銭2は寛永通寶。初鑄は寛永13年(1636)である。1区の第1面検出中に出土した。裏面は無文である。

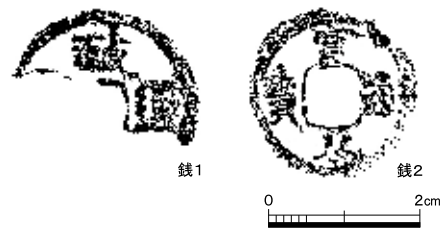


図15 銭貨拓影(1:1)

(4) ガラス製品 (図16)

ガラス製品は2点出土した。検出及び整地層から出土した。うち1点は小片である。

ガラス1は、2区北半の鎌倉時代前半の整地層(北半南壁18層)から出土したガラス玉である。出土位置はX=-112,771.8、Y=-22,087.4付近である。2片に割れた状態で、それぞれの破片が40cm程度離れた状態であった。一部欠損しており、表面は白色化する。大きさは、長さ2.4cm、

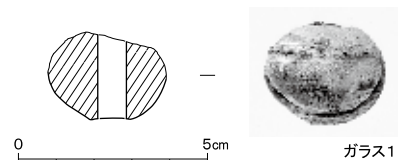


図16 ガラス玉実測図及び写真(1:2)

幅3.1cm、厚さ3.0cm、孔の直径0.8cmである。濃い青色を呈する。ガラスの成分は、カリ鉛ガラスであることが、蛍光X線分析の結果から判明した²⁾。製作技法については、ガラスの表面で線状の単位を観察することができることから巻き上げ技法と考えられる。

(5) 石製品 (図17)

滑石製石鍋や砥石などが出土した。

石1~3は滑石製石鍋である。石1は2区第1面の素掘り溝群から出土した。鏝を作り出さない。石2・3は2区鎌倉時代前半の整地層から出土した。鏝の断面形は台形状を呈する。石3は口縁直下に円孔が穿たれており、温石として再利用されたものと考えられる。

石4は滑石製品である。1区の井戸44から出土した。左半を欠損する。残存長10.2cm、最大幅7.0cm、厚さ1.8cmである。裏面以外は平滑に整える。平滑な面には平行する凹線が観察できるが、製品製作時の痕跡か刃物などを研いだ擦痕かは判断できない。

石5~7は砥石である。石5は2区第1面の素掘り溝群から出土した。短辺の片側を欠損する。欠損する面以外には擦痕が認められる。残存長6.5cm、最大幅3.9cm、厚さ1.6cmである。石材は砂岩。石6は2区第1面の素掘り溝群から出土した。短辺の両側と裏面の一部を欠損する。それ以外の面には擦痕が認められる。残存長9.8cm、最大幅5.6cm、厚さ3.8cmである。石材は凝灰岩。石7

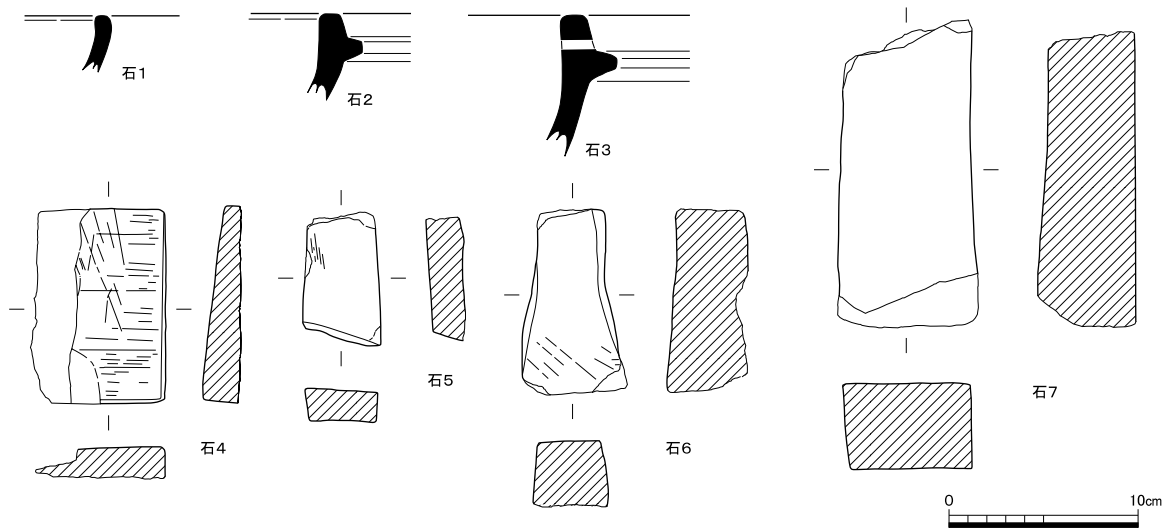


図17 石製品実測図（1：4）

は2区井戸787枠内から出土した。短辺の両側を欠損し、それ以外の面には擦痕が認められる。残存長16.0cm、最大幅7.5cm、厚さ5.2cmである。石材は凝灰岩。

註

- 1) 文字の判読については、大阪大谷大学の竹本晃氏よりご教授を得た。記して感謝申し上げます。
- 2) 蛍光X線分析は、龍谷大学の北野信彦教授に依頼した。記して感謝申し上げます。

5. まとめ (図18～20)

今回の調査地は、平安京左京九条三坊八町の南東部から針小路にまたがる範囲である。調査の結果、平安時代中期及び鎌倉時代前半の遺構・遺物を検出した。平安時代中期は流路や平坦面、素掘り溝、鎌倉時代前半では礎石建物、掘立柱建物、柵、井戸、道路などを検出したことで、土地利用の変遷が明らかとなった。

平安時代中期 (図18) この時期の遺構には、流路247・848、平坦面684・894、素掘り溝群がある。流路は出土した遺物から、10世紀代には埋没したと考えられる。

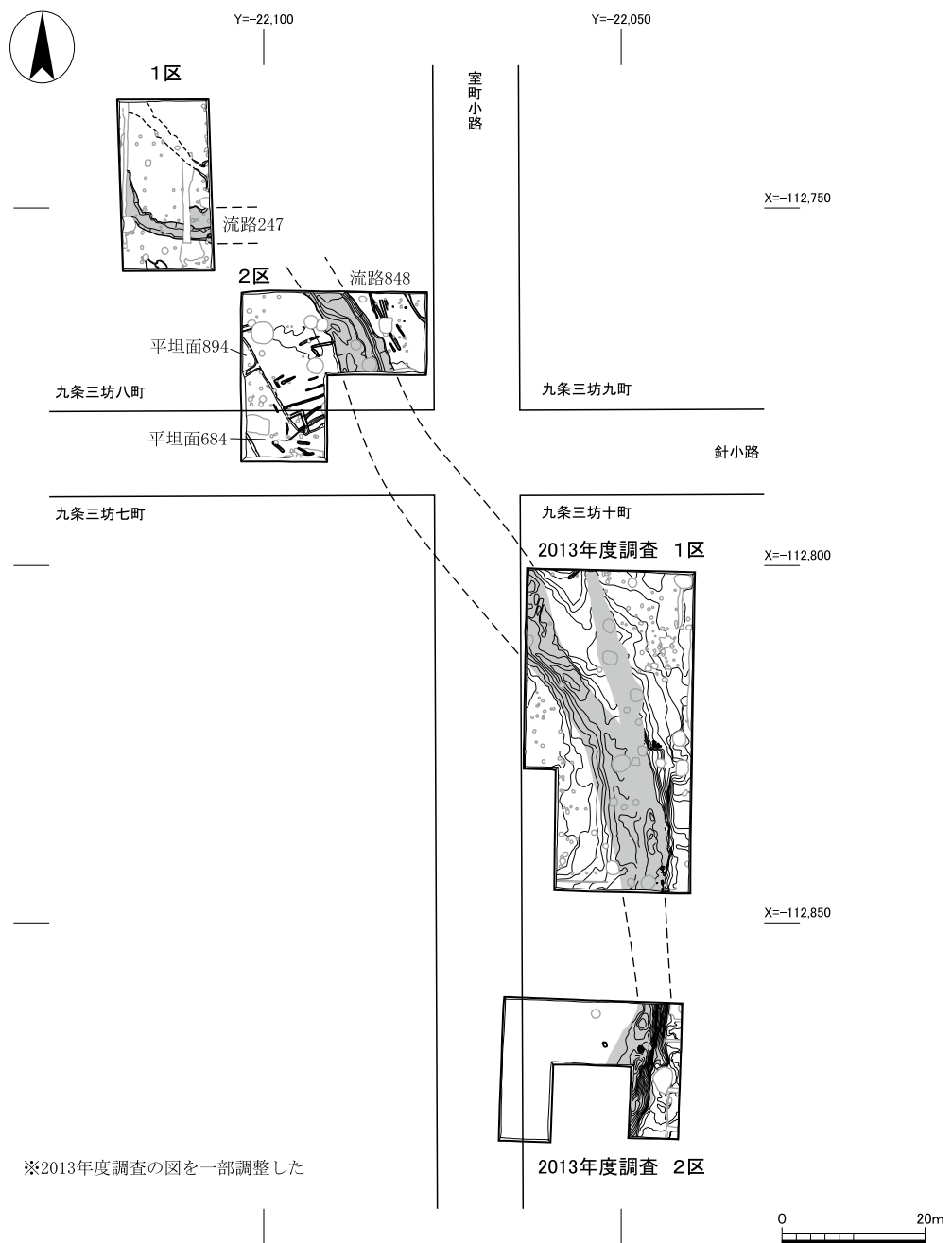


図18 第3面遺構概要図 (1 : 1,000)

流路848は、北西から南東方向の流路で、幅は5.1～7.5mである。埋土の堆積状況から新旧2時期に分けることができる。新段階には流路の東半分を埋めて、幅を狭く造り替える。この流路848の南東側の延長部分については、今回の調査地南東側にあたる調査16¹⁾(左京九条三坊十町)で検出されている。流路は、室町小路と針小路を横切って流れるように復元することができる。流路がある状態で室町小路と針小路の交差部付近の条坊施工がどのようになされていたのかは、該当部分のさらなる調査が必要である。また、平坦面や素掘り溝群は、流路848とほぼ平行ないし直交しており、土地利用が流路によって規制されていたことを示す。平坦面や素掘り溝群は耕作に伴う遺構と考えられ、これらの遺構が針小路推定範囲にも及んでいることから、少なくとも今回の調査地内では道路として機能していないことが明らかとなった。ただし、平安京造営当初の条坊施工の様子については、判断する材料を得ることができなかった。平安京内では基本的に耕作を行うことは禁止されていたが、平安京造営後間もなくして空闲地を耕地として利用することが許されている²⁾。京内で耕作を営んでいた事例としては、平安京右京四条二坊六町³⁾や皇嘉門大路の内溝を耕作に利用していた可能性が、自然科学分析の結果から指摘されている⁴⁾。本調査地において、耕作に伴う平坦面や素掘り溝群を検出したことで、平安京の土地利用の実態を示す新たな資料が提示できた。

また、周辺の調査では、調査3・10・11・16などでも平安時代前期から中期の流路や落込み、湿地状堆積が認められることから、中小規模の河川が複数流下していた様子が想定できる。このことは、平安時代前期の左京九条周辺が湧き水多く流水で満ち溢れていた⁵⁾という記述とも一致する。このような湧水が多く居住には不向きな場所であっても、発掘調査の成果からは土地を管理し、利用していたことがうかがえる。また、その土地利用は、条坊区画に規制されるものではなく、自然地形を利用するものであった。

鎌倉時代前半(図19・20) この時期の遺構は、礎石建物、掘立柱建物、柵、井戸、道路などがある。大規模な整地を行い、建物やその関連施設が作られ宅地化が進む。整地は2回は行われているが、1回目の整地は後世に削平されており、局所的な確認に留まった。整地後も地盤が非常に軟弱であったためか掘立柱建物の柱穴の底部には地下式礎石などを用いた沈下防止の工夫がみられる。軟弱地盤に加え、井戸掘形底部を比較的浅いところで検出していることから地下水位も高かったことがわかる。そのため、柱が傷みやすく、地下式礎石を3～4石重ね、柱の修復を繰り返していた様子もうかがえる。これらの遺構は13世紀前半から末にかけてであるが、13世紀後半が中心となる。遺構の重複関係などから3期に細分することができる。

1期(図19) この段階の遺構には、井戸700・801・883などがある。これらの井戸をX=-112,767付近で東西方向に並ぶように検出した。井戸801は円形縦板組の井戸である。建物4や地業782の構築時に枠内を人頭大の礫で充填して人為的に埋められており、建物4が築造される直前まで機能していたものと考えられる。これらの井戸に伴う建物や関連施設は確認できなかったものの13世紀前半の早い段階には、宅地としての利用が始まっていた可能性が高い。

2期(図19) 検出した遺構には、建物4及び地業782、柵4・5、道路640がある。本格的な開発が行われる時期で、礎石建物の建物4建築や針小路の整備が行われる。

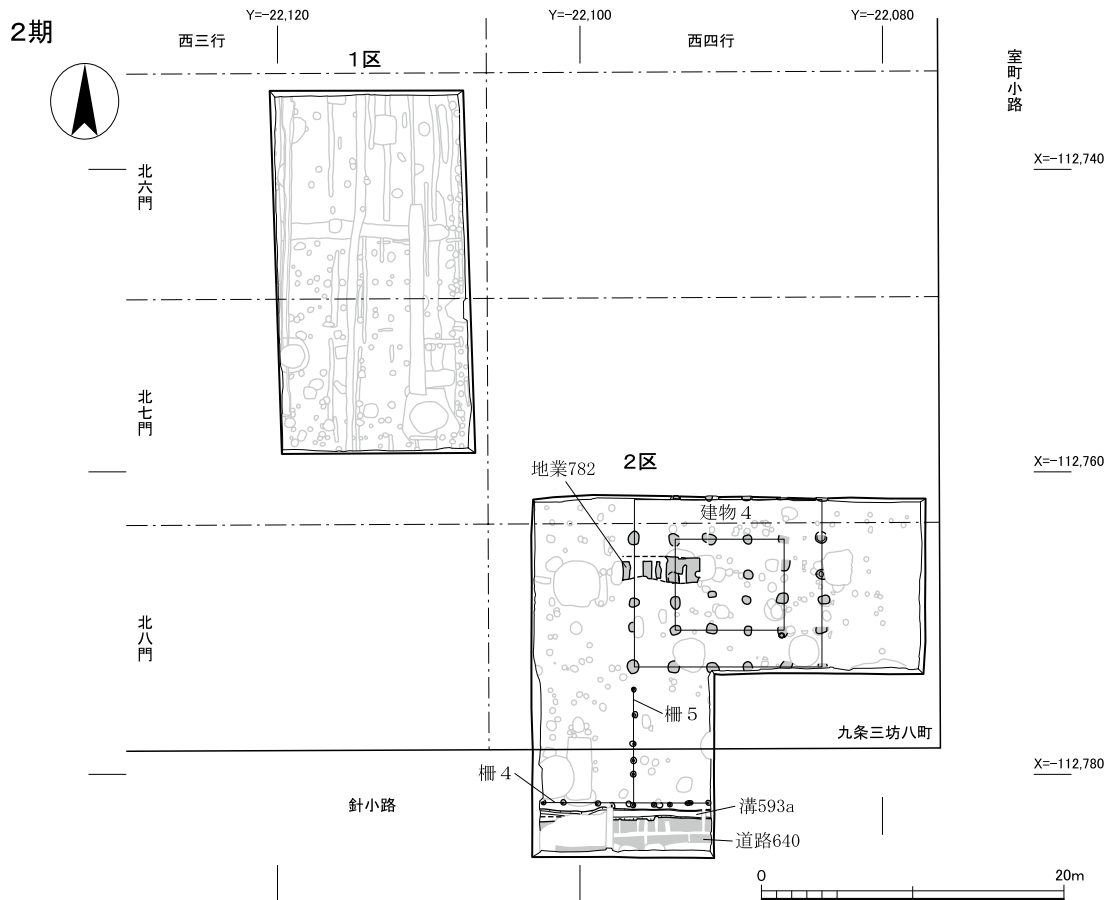
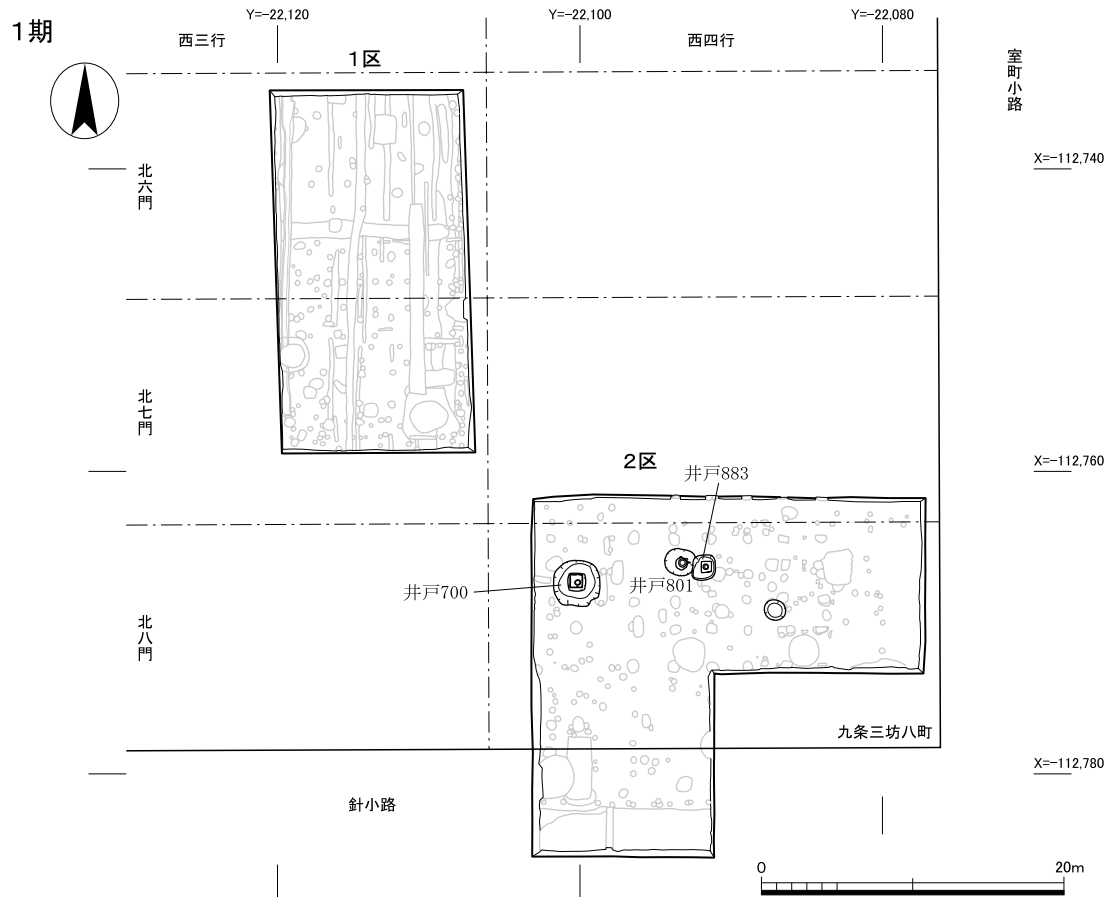


図19 第2面遺構変遷図1 (1:500)

建物4は、南北5間(11.0m)、東西5間(12.4m)の礎石建物で、南北3間(6m)、東西3間(7.2m)の身舎の四方に1間分(2.4~2.7m)の庇がつく建物を想定している。礎石据付穴の下部に拳大の礫を充填し強固な基礎を構築している。いわゆる壺地業と考えられる。このことは、重量のある上部構造の建物であることを想定させることに加え、軟弱地盤に対応するための工夫とも考えられる。軟弱地盤に加え地下水位も高かったためか、礎石建物下部の湿気抜きとして地業782を構築する。建物4のほぼ中央から西側に向かって延びる。今回の調査で出土した瓦の量は少なく、その多くは建物4が成立する鎌倉時代前半の整地層内から出土している。このことは建物4が瓦葺ではない可能性を示唆する。その選地については、四行八門制に位置づけると東西は西四行のほぼ中央、南北は北八門から北七門の一部にかけてで、建物4のみで少なくとも2戸主分を占める。さらに、柵5によって敷地を東西に区画している。東側を建物4に伴う空間、西側を同一宅地内の別空間と考えることもできる。建物の性格を決める材料は乏しく①重量のある上部構造であることや②調査地周辺で宅地内に仏堂を建てる事例が多いことが文献史料からうかがえること③文献史料を裏付けるように発掘調査例でも調査11(左京九条二坊十六町)で持仏堂の可能性のある建物を検出していることなどから、建物4も文献で見られるような複数建てられた仏堂のうちの1棟の可能性が考えられる。調査11に加え、京内の仏堂と考えられる発掘調査例が1例あり、ともに面的な掘込地業を行うという工法に共通点がみいだせる。一方で本例は壺掘地業を行っており工法的に異なる。このような工法の違いが、建物の性格や構造などといったどのような要因に由来するものかは、類例の増加をまって検討していく必要がある。

道路640は、針小路北築地塀推定ラインより南へ約4mのX=-112,778付近で北側溝を検出した。検出できたのは、道路構築土と北側溝である。調査成果から復元できる構築過程は以下の通りである。①路面及び側溝部分を掘り込む。②掘形底部に土を敷く。木の小片や枝などを比較的多く含む土を用いるところもある。③土の上に拳大の礫を山状に積み上げる。礫の間に土を混ぜるところもある。④礫の北側に側溝を造る。北側溝は掘り直しが行われた可能性があり、新旧2時期に分けることができる。路面そのものは、後世の削平により残っていなかった。構築土に礫を多く用いる掘込地業によって構築する点が特徴で、道路として平安京内では他に例をみない工法である。軟弱地盤に対応するための工夫と捉えられる。

3期(図20) 検出した遺構には建物5、井戸、土坑などがある。2区では井戸に伴う小規模建物が展開するようになる。宅地利用の在り方に変化が認められ、宅地が細分される時期と考えられる。

建物5は建物4と重複して検出した。遺存状況が悪いため、その構造については詳細不明である。建物の西側には井戸が2つあり、そのうちの井戸787が建物5に伴う可能性がある。井戸571に伴う建物については検出できていないが、建物5の南側も宅地として利用されていたと想定できる。1区では小規模な建物を3棟検出した。それぞれの建物に対応するように井戸が伴う。四行八門制の西三行と西四行の境から西へ1.8mのところ、南北方向の柵2を検出しており、この柵が宅地境と考えられ、柵2を境にして東西に分割されている。柵2の東側は室町小路開く宅地と想

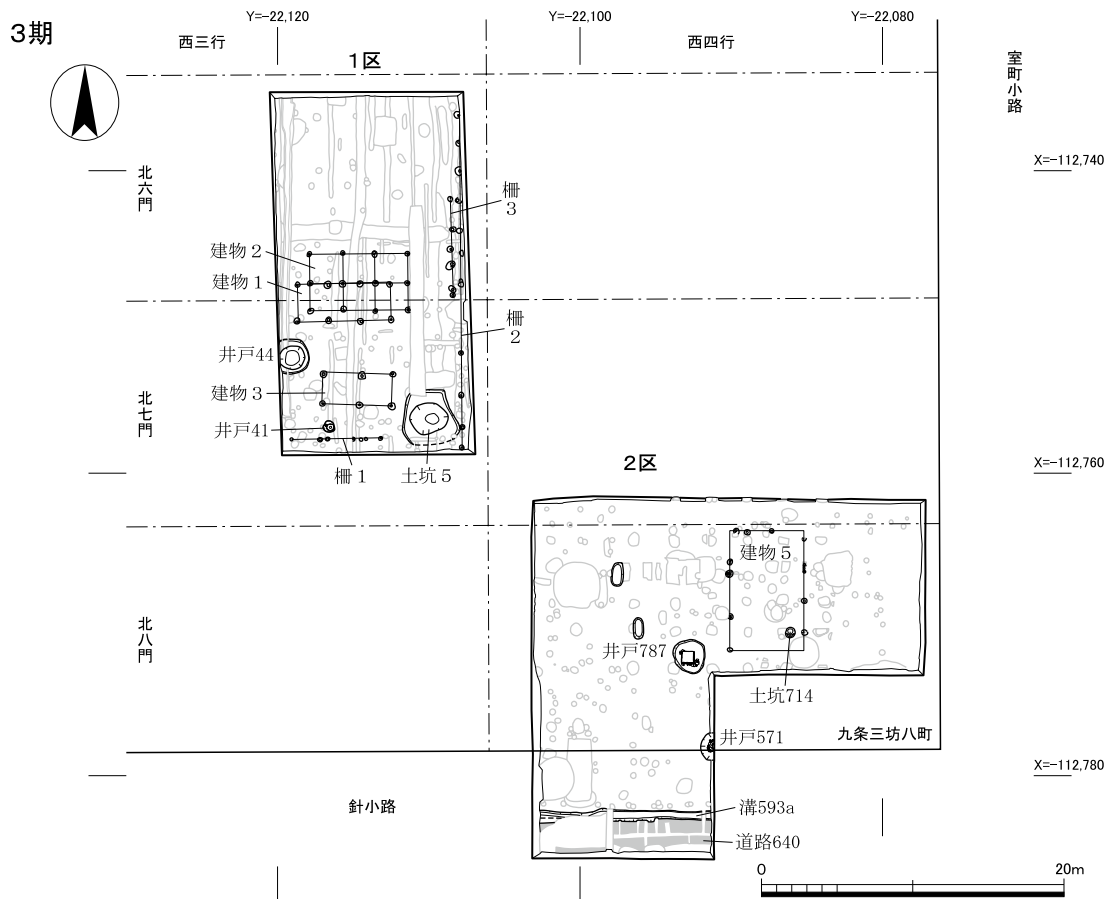


図20 第2面遺構変遷図2 (1:500)

定できるが、西側は一町のほぼ中央に位置することから、どのように出入りしていたかが今後の課題である。宅地を細分して利用するにあたり、小径や辻子が整備されたのであろうか。

鎌倉時代後半以降 それまでの建物や井戸などの居住に関連する遺構はなくなる。これに代わって、第1面で検出した耕作に伴う素掘り溝群が調査区全体に展開する。調査区の壁面観察から、中世から近現代に至るまで耕作地として利用される。

註

- 1) 調査番号は図5・表1に対応。
- 2) 「弘仁十年(819)十一月五日条」「天長四年(827)九月二六日条」『類聚三代格』新訂増補国史大系 吉川弘文館 1977年
- 3) 「平安京右京四条二坊」『昭和62年度 京都市埋蔵文化財調査概要』財団法人京都市埋蔵文化財研究所 1991年
- 4) 『平安京左京二条四坊十五町跡・東京極大路跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2015-5 公益財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2015年
- 5) 「綜芸種智院式」『三教指帰 性靈集』日本古典文学大系 岩波書店 1965年
- 6) 『平安京右京六条一坊・左京六条一坊跡』京都市埋蔵文化財研究所発掘調査概報 2002-6 財団法人京都市埋蔵文化財研究所 2002年

付表1 土器観察表

No.	器種	器形	調査区	遺構	法量(cm)			胎土色調	備考
					口径	器高	底径		
1	土師器	皿N小	1区	土坑5	8.1	1.4		10YR7/3にぶい黄橙色	
2	土師器	皿N小	1区	土坑5	8.8	1.6		10YR7/2にぶい黄橙色	
3	土師器	皿N小	1区	土坑5	9.2	1.6		10YR7/2にぶい黄橙色	
4	土師器	皿N小	1区	土坑5	10.9	1.8		10YR7/2にぶい黄橙色	
5	土師器	皿N小	1区	土坑5	11.0	1.5		10YR7/2にぶい黄橙色	
6	土師器	皿N大	1区	土坑5	12.0	2.8		10YR7/2にぶい黄橙色	
7	瓦器	皿	1区	土坑5		0.8		N4/0灰色	
8	瓦器	杯	1区	土坑5	6.5	3.1	4.5	2.5Y6/1黄灰色	
9	瓦器	椀	1区	土坑5	14.0	4.6	5.0	N4/0灰色	
10	瓦器	盤	1区	土坑5	47.0	9.3		N4/0灰色	
11	輸入陶磁器	青白磁壺	1区	土坑5	3.8	(2.5)		N9/0白色 釉5G7/1明緑灰色	
12	土師器	皿Ac	2区	井戸700		1.4		10YR7/3にぶい黄橙色	
13	土師器	皿N小	2区	井戸700	8.7	1.7		10YR8/2灰白色	
14	土師器	皿N小	2区	井戸700	8.8	1.4		7.5YR7/4にぶい橙色	
15	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.0	1.4		7.5YR7/3にぶい橙色	
16	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.1	1.9		10YR8/2灰白色	
17	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.1	(1.7)		7.5YR7/4にぶい橙色	
18	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.2	1.3		7.5YR7/4にぶい橙色	
19	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.3	1.7		10YR7/3にぶい黄橙色	
20	土師器	皿N小	2区	井戸700	9.8	2.5		10YR8/3浅黄橙色	
21	土師器	皿N大	2区	井戸700	13.0	(2.3)		10YR7/2にぶい黄橙色	
22	土師器	皿N大	2区	井戸700	13.4	2.6		10YR8/3浅黄橙色	
23	土師器	皿N大	2区	井戸700	14.2	3.0		10YR8/4浅黄橙色	
24	土師器	高杯	2区	井戸700		(17.9)		10YR8/2灰白色	
25	瓦器	皿	2区	井戸700	8.7	2.0		N3/0暗灰色	
26	瓦器	椀	2区	井戸700	15.4	5.3	5.6	N5/0灰色	
27	輸入陶磁器	白磁椀	2区	井戸700		(3.1)	5.5	N8/0灰白色 釉7.5Y7/2灰白色	
28	輸入陶磁器	白磁椀	2区	井戸700		(2.9)	5.6	N9/0白色 釉うすい明緑灰色	
29	輸入陶磁器	鉄釉皿	2区	井戸700		(2.4)		10YR8/1灰白色 釉7.5YR4/3褐色	
30	土師器	皿N小	2区	地業782	8.2	1.3		10YR7/2にぶい黄橙色	
31	土師器	皿N小	2区	地業782	9.0	1.4		7.5YR8/3浅黄橙色	
32	土師器	皿S	2区	地業782	13.6	3.0		10YR8/2灰白色	
33	瓦器	皿	2区	地業782	8.8	1.5		N3/0暗灰色	
34	瓦器	椀	2区	地業782	14.1	(4.1)		N3/0暗灰色	
35	瓦器	羽釜	2区	地業782		(4.6)		N4/0灰色～N8/0灰白色	
36	瓦器	鍋	2区	地業782		(4.4)		N5/0灰色～N8/0灰白色	
37	瓦器	盤	2区	地業782	35.7	(7.1)		N3/0暗灰色	
38	須恵器	鉢	2区	地業782	29.8	(9.0)		N6/0灰色	
39	施釉陶器	古瀬戸皿	2区	地業782	8.5	2.3	4.4	2.5Y7/1灰白色 釉5Y4/1灰色	

No.	器種	器形	調査区	遺構	法量(cm)			胎土色調	備考
					口径	器高	底径		
40	土師器	皿N小	2区	土坑714	8.6	1.6		10YR8/2灰白色	
41	土師器	皿N大	2区	土坑714	13.0	2.6		10YR7/3にぶい黄橙色	
42	土師器	皿N大	2区	土坑714	14.4	2.5		2.5Y7/2灰黄色	
43	瓦器	椀	2区	土坑714	13.7	4.7	4.5	N3/0暗灰色	
44	瓦器	羽釜	2区	道路640	15.8	(8.5)		10YR8/1灰白色	
45	瓦器	羽釜	2区	道路640	20.3	(4.6)		10YR4/2灰黄褐色	
46	土師器	皿N小	2区	井戸787	8.0	1.5		10YR8/3浅黄橙色	
47	土師器	皿N小	2区	井戸787	7.9	1.1		7.5YR6/4にぶい橙色	
48	土師器	皿N小	2区	井戸787	8.1	1.3		10YR8/2灰白色	
49	土師器	皿N小	2区	井戸787	7.7	1.5		10YR7/2にぶい黄橙色	
50	土師器	皿N大	2区	井戸787	12.8	(2.2)		10YR7/3にぶい黄橙色	
51	瓦器	羽釜	2区	井戸787		(4.0)		N3/0暗灰色	
52	瓦器	鍋	2区	井戸787		(3.3)		N4/0灰色	
53	瓦器	盤	2区	井戸787		(6.5)		2.5Y5/1黄灰色	
54	須恵器	鉢	2区	井戸787		(5.2)		N5/0灰色	
55	山茶椀	鉢	2区	井戸787		(5.4)		N7/0灰白色	
56	焼締陶器	甕	2区	井戸787		(3.8)		7.5YR5/4にぶい褐色	
57	土師器	皿N大	2区	井戸571	11.6	2.4		10YR7/4にぶい黄橙色	
58	土師器	皿S	2区	井戸571	10.7	(3.0)		10YR8/2灰白色	
59	須恵器	甕	1区	井戸41	31.8	(47.8)		N4/0灰色	
60	須恵器	甕	2区	井戸600	25.7	(29.1)		N3/0暗灰色	
61	焼締陶器	甕	2区	井戸571	50.2	(62.1)		5YR5/4にぶい赤褐色	
62	輸入陶磁器	白磁椀	2区	整地層		(2.6)		2.5Y8/1灰白色	
63	輸入陶磁器	青磁皿	2区	整地層	10.1	2.0	4.9	N7/0灰白色 釉2.5GY7/1明オリーブ灰色	
64	輸入陶磁器	青磁皿	2区	素掘り溝群	10.7	2.4	5.3	5Y7/1灰白色 釉10Y7/2灰白色	
65	輸入陶磁器	青磁椀	2区	素掘り溝群	11.6	(3.7)		N6/0灰色 釉10Y5/2オリーブ灰色	
66	輸入陶磁器	青磁椀	2区	素掘り溝群	12.7	(4.4)		N7/0灰白色 釉10GY7/1明緑灰色	
67	輸入陶磁器	褐釉壺	2区	整地層	8.2	20.9	7.1	5YR6/1褐灰色 釉2.5Y7/2灰黄色、10YR3/3暗褐色	
68	灰釉陶器	壺	2区	整地層	9.0	(9.1)		N8/0灰白色 釉7.5Y6/2灰オリーブ色	

圖 版



Y=-22,120

Y=-22,112

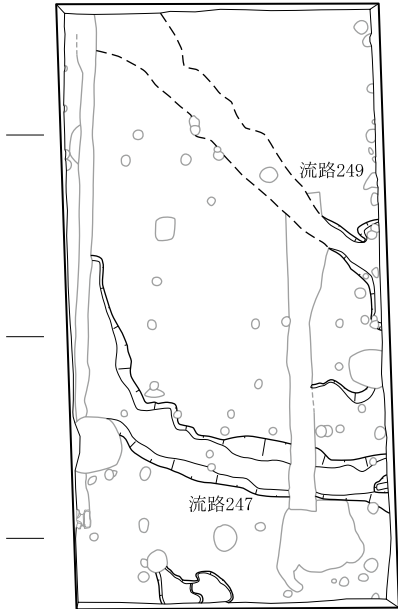
Y=-22,104

Y=-22,096

Y=-22,088

Y=-22,080

1区

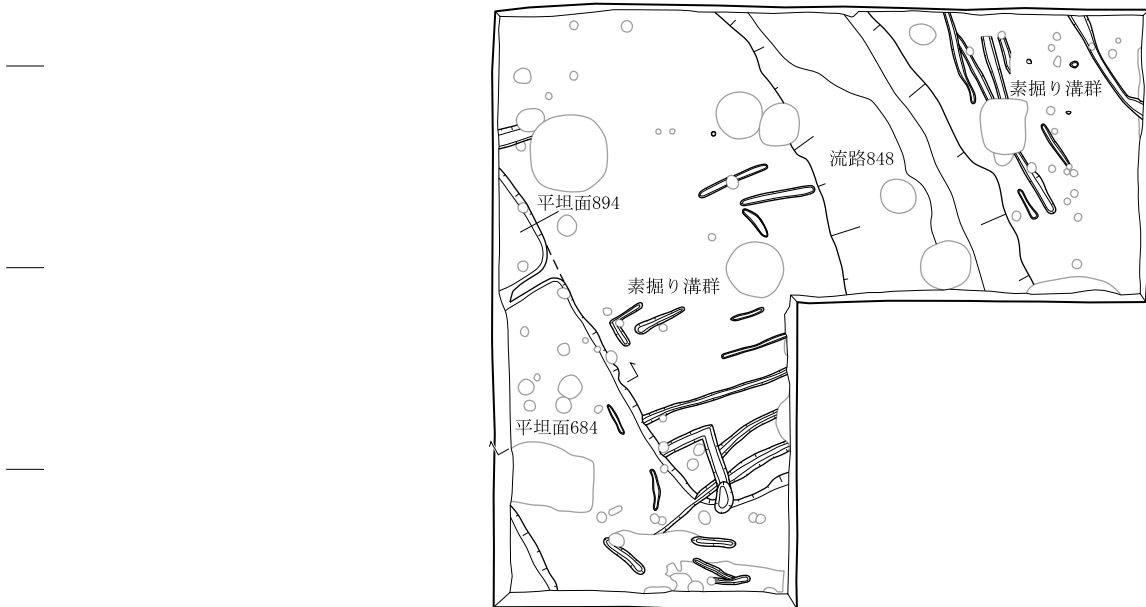


X=-112,740

X=-112,748

X=-112,756

2区



X=-112,764

X=-112,772

X=-112,780



第3面遺構平面図 (1 : 300)

図版2
遺構



Y=-22.120

Y=-22.112

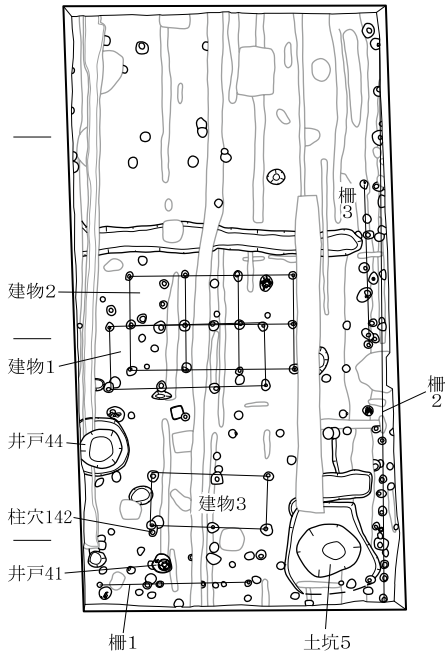
Y=-22.104

Y=-22.096

Y=-22.088

Y=-22.080

1区

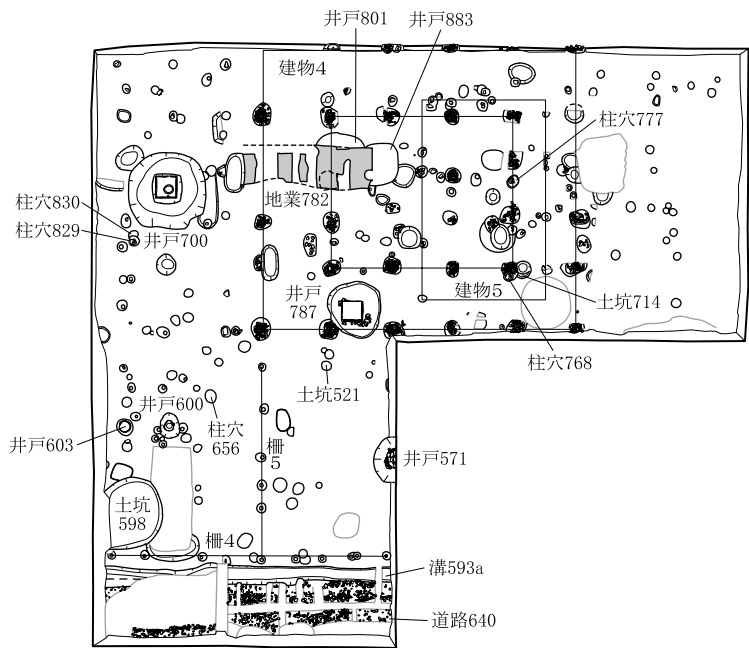


X=-112.740

X=-112.748

X=-112.756

2区



X=-112.764

X=-112.772

X=-112.780



第2面遺構平面図 (1 : 300)



Y=-22,120

Y=-22,112

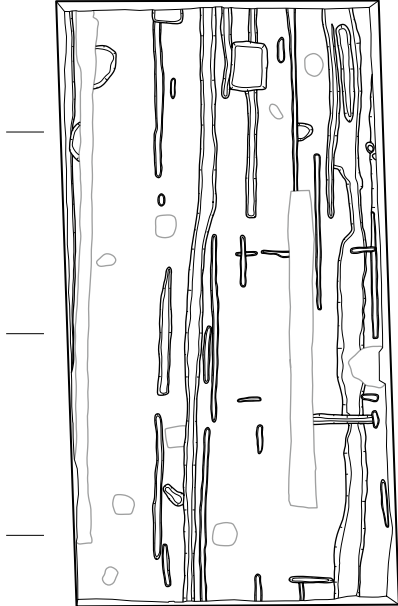
Y=-22,104

Y=-22,096

Y=-22,088

Y=-22,080

1区

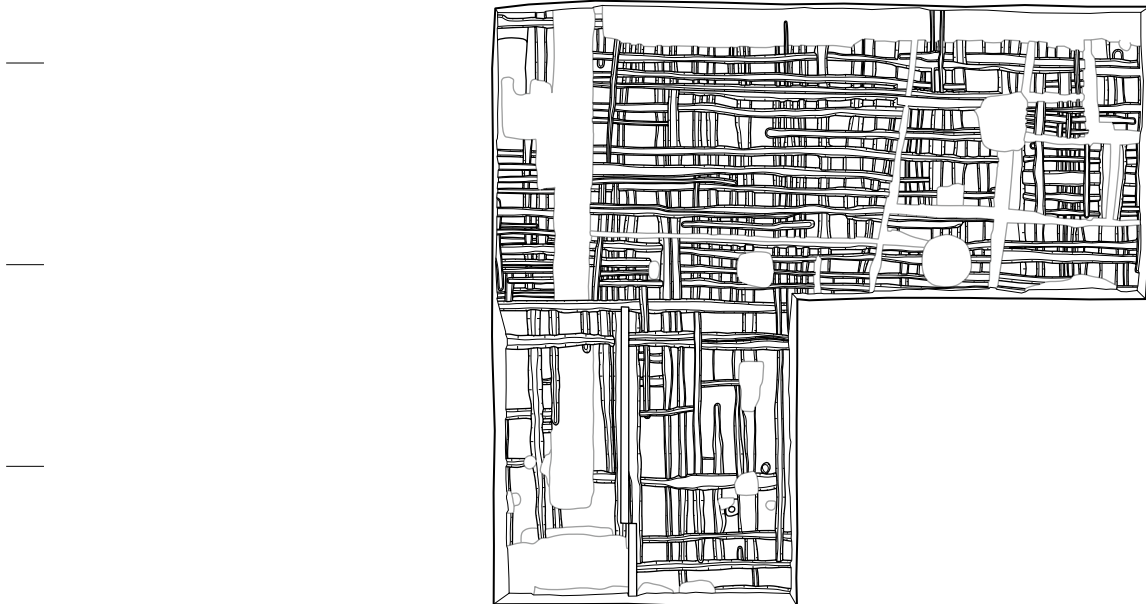


X=-112,740

X=-112,748

X=-112,756

2区



X=-112,764

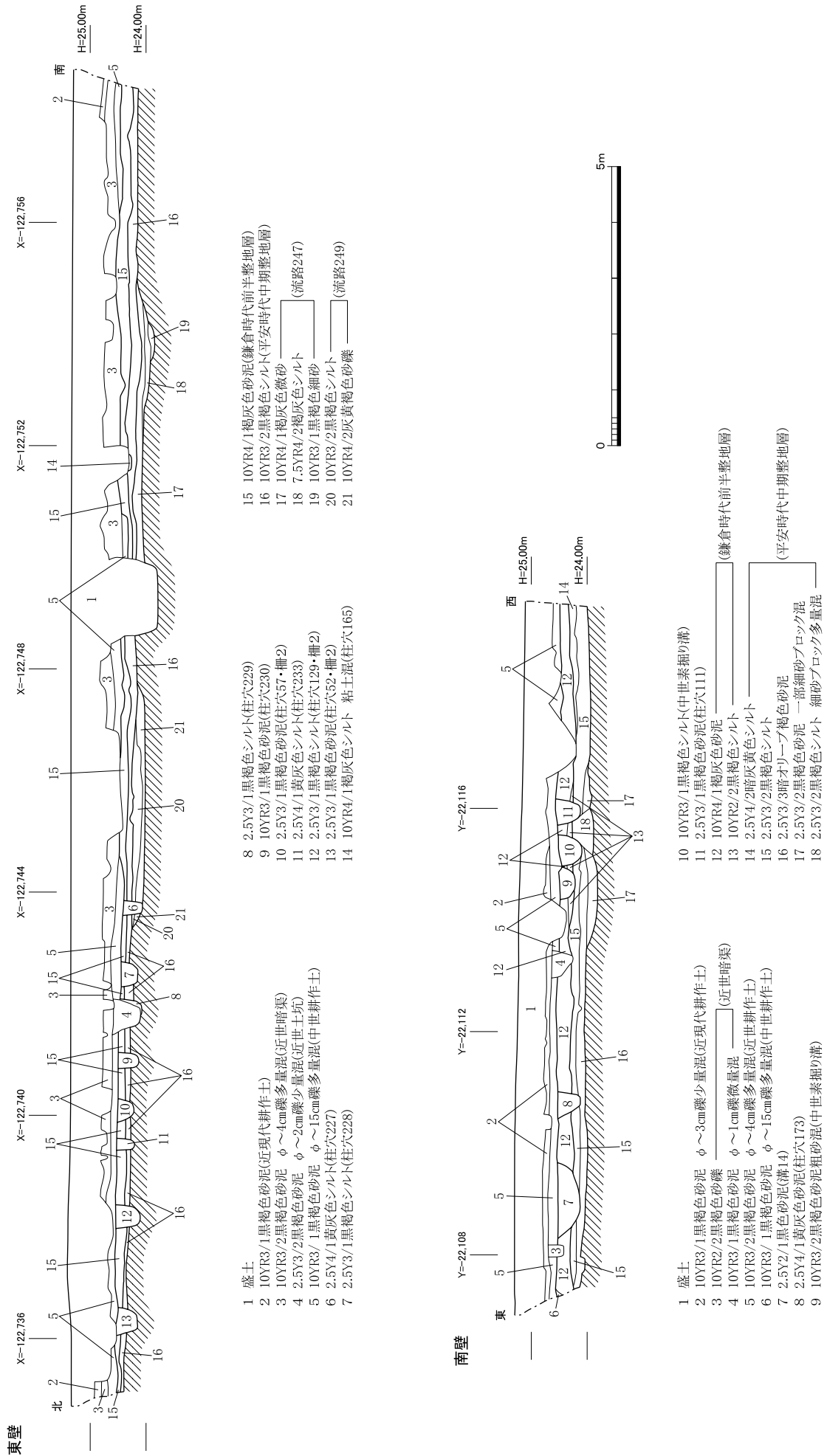
X=-112,772

X=-112,780

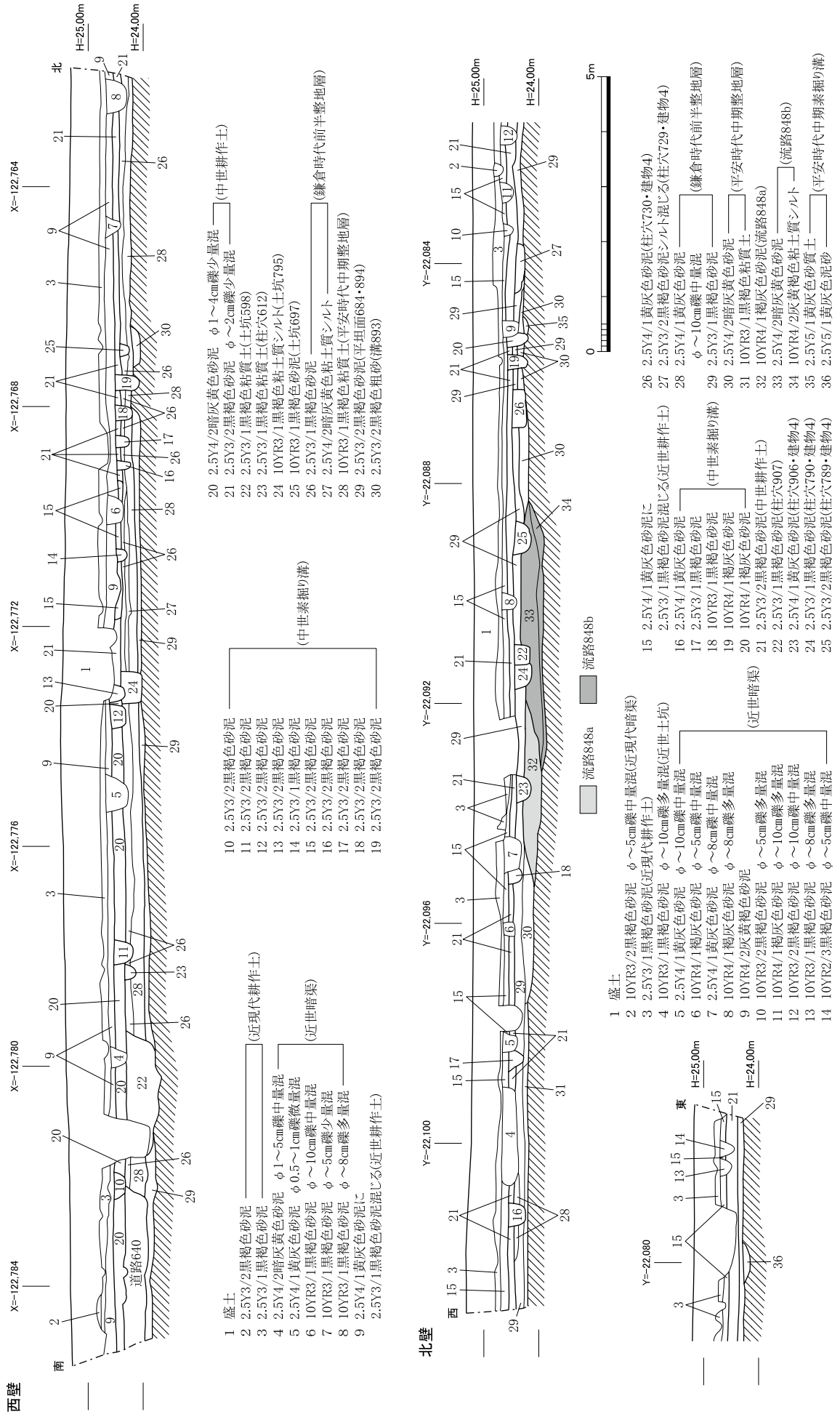


第1面遺構平面図 (1 : 300)

図版 4 遺構

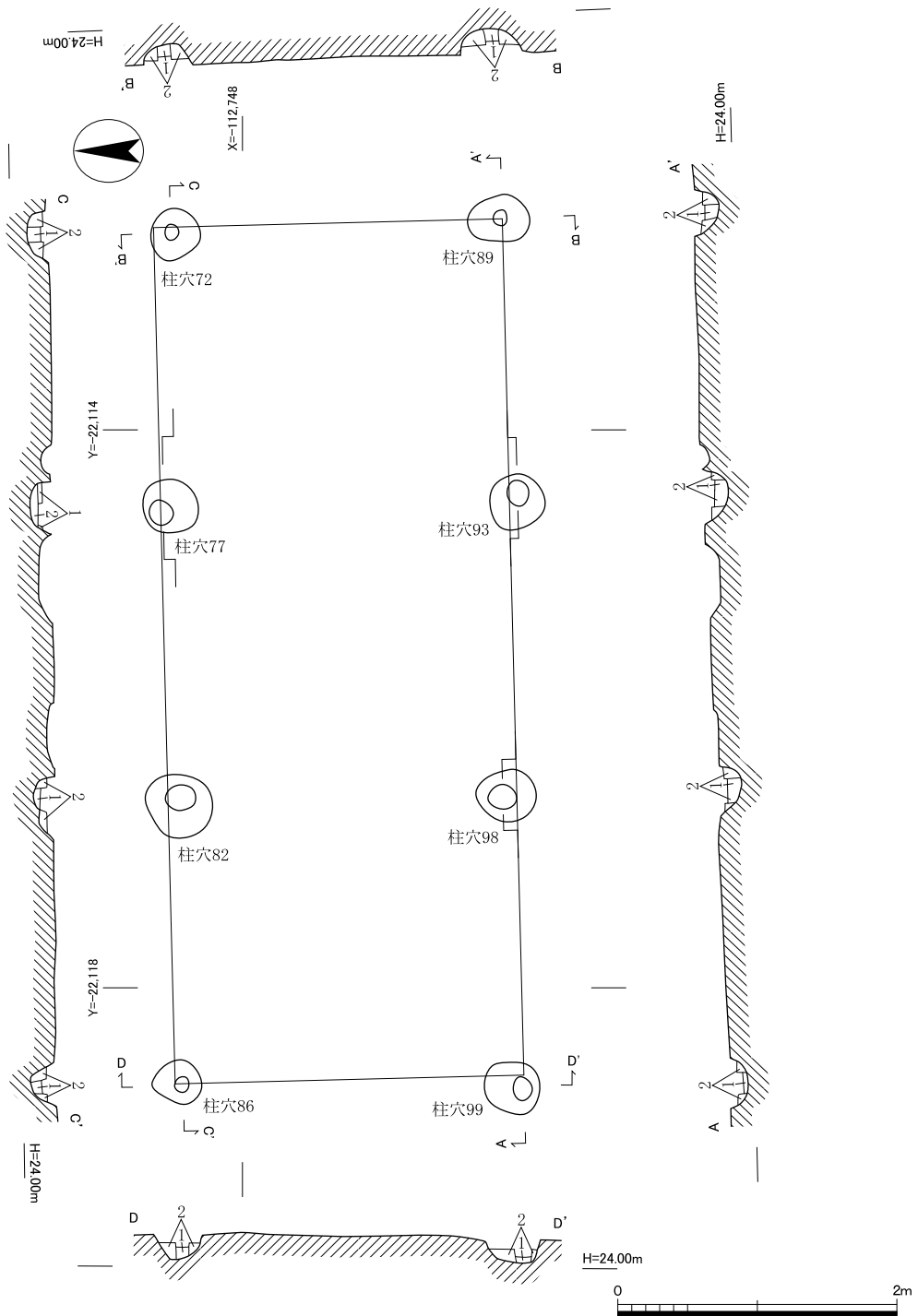


1区東壁・南壁断面図 (1:100)



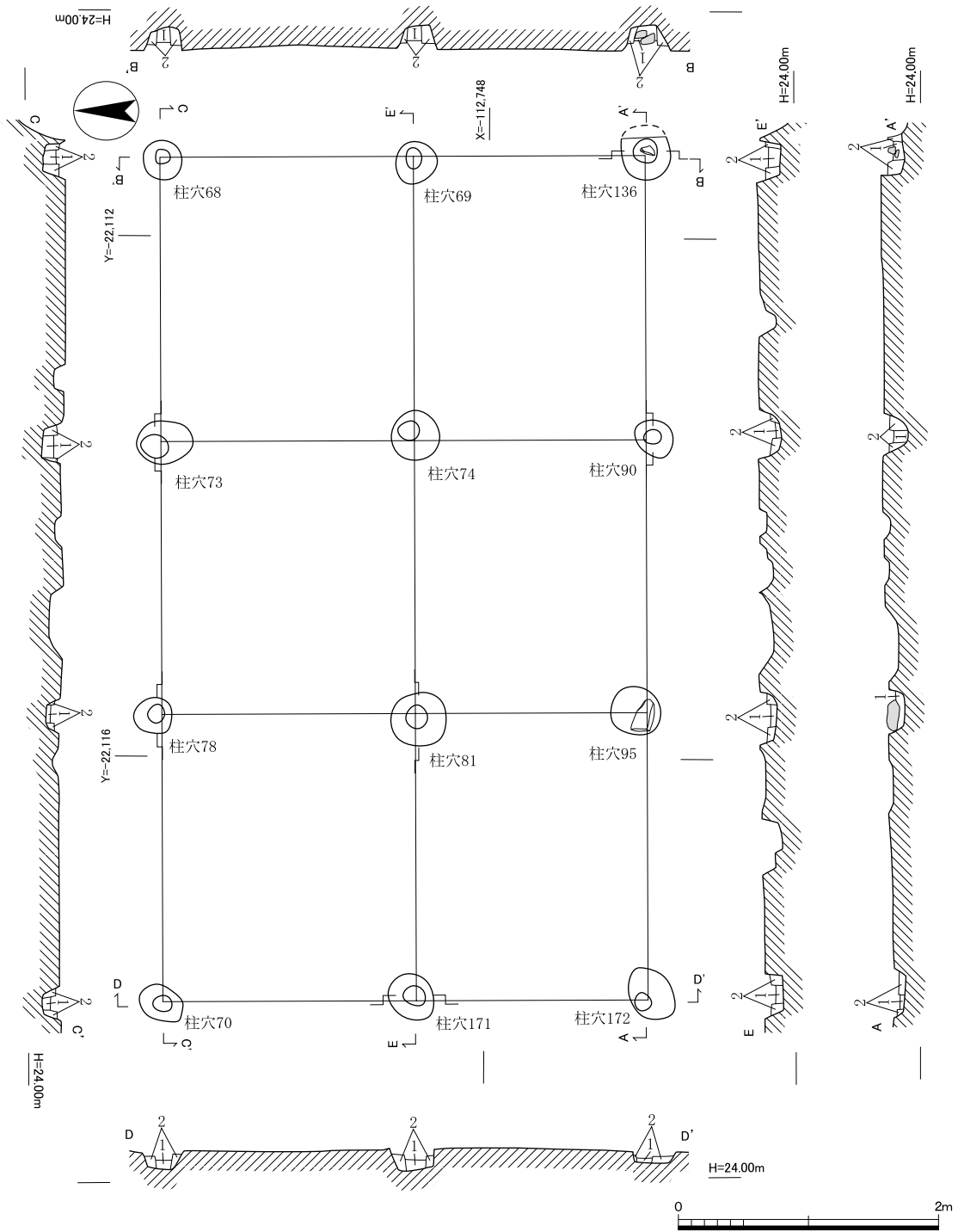
2区西壁・北壁断面図 (1:100)

図版6
遺構



- | | |
|-------------------|-------------------|
| 柱穴72 | 柱穴89 |
| 1 10YR4/1褐灰色砂礫 | 1 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 |
| 2 10YR4/2灰黄褐色砂礫 | 2 10YR4/2灰黄褐色砂礫 |
| 柱穴77 | 柱穴93 |
| 1 10YR4/1褐灰色砂礫 | 1 10YR4/4褐色砂礫 |
| 2 10YR5/4にぶい黄褐色砂礫 | 2 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 |
| 柱穴82 | 柱穴98 |
| 1 10YR4/2灰黄褐色砂礫 | 1 10YR4/2灰黄褐色砂礫 |
| 2 10YR4/1褐灰色砂礫 | 2 10YR4/1褐灰色砂礫 |
| 柱穴86 | 柱穴99 |
| 1 10YR4/2灰黄褐色砂礫 | 1 2.5Y4/2暗灰黄色砂礫 |
| 2 10YR4/3にぶい黄褐色砂礫 | 2 10YR4/2灰黄褐色砂礫 |

1区建物1実測図(1:50)



柱穴68
1 10YR3/2黑褐色砂泥
2 10YR4/2灰黄褐色砂泥

柱穴73
1 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥
2 10YR4/2灰黄褐色砂泥

柱穴78
1 10YR5/1褐灰色砂泥
2 10YR4/1褐灰色砂泥

柱穴70
1 10YR4/2灰黄褐色砂泥
2 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥

柱穴69
1 10YR2/2黑褐色砂泥
2 10YR3/2黑褐色砂泥

柱穴74
1 10YR4/1褐灰色砂泥
2 10YR4/2灰黄褐色砂泥

柱穴81
1 2.5Y3/1黑褐色砂泥
2 10YR4/1褐灰色砂泥

柱穴171
1 10YR3/3暗褐色砂泥
2 10YR3/2黑褐色砂泥

柱穴136
1 10YR3/3暗褐色砂泥
2 10YR3/2黑褐色砂泥

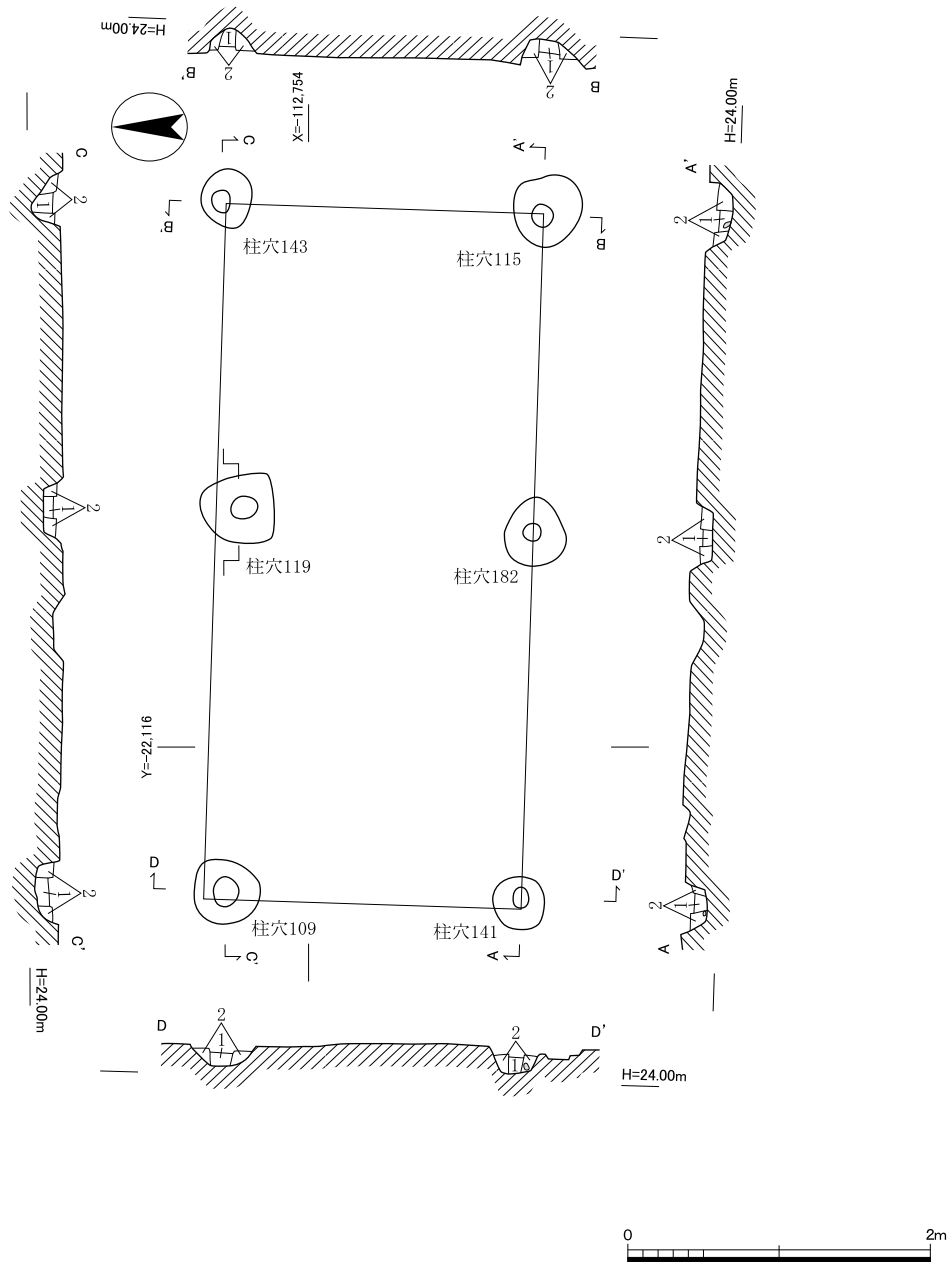
柱穴90
1 10YR4/2灰黄褐色砂泥
2 10YR3/2黑褐色砂泥

柱穴95
1 10YR3/2黑褐色砂泥

柱穴172
1 2.5Y3/1黑褐色砂泥
2 10YR4/2灰黄褐色砂泥

1区建物2実測図(1:50)

図版 8
遺構



柱穴143

- 1 10YR3/1黒褐色砂泥
- 2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴119

- 1 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 2 10YR3/2黒褐色砂泥

柱穴109

- 1 10YR3/3暗褐色砂泥
- 2 10YR3/2黒褐色砂泥

柱穴115

- 1 10YR3/1黒褐色砂泥
- 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥

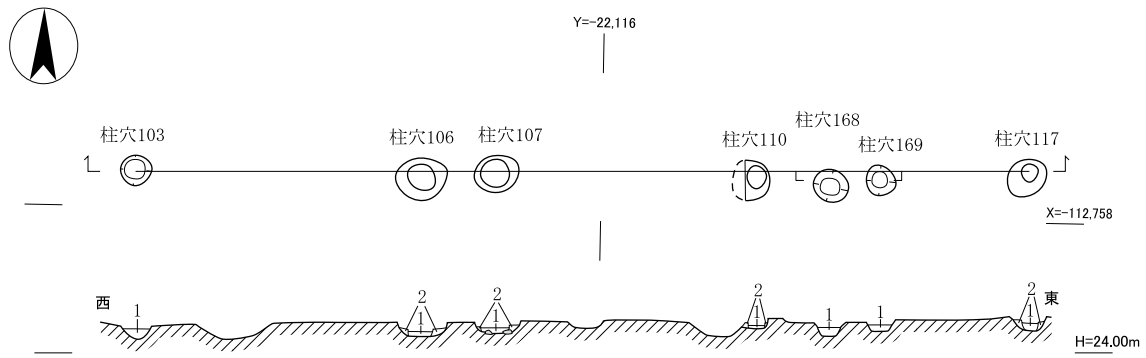
柱穴182

- 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥

柱穴141

- 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柵1



柱穴103
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥

柱穴106
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴107
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

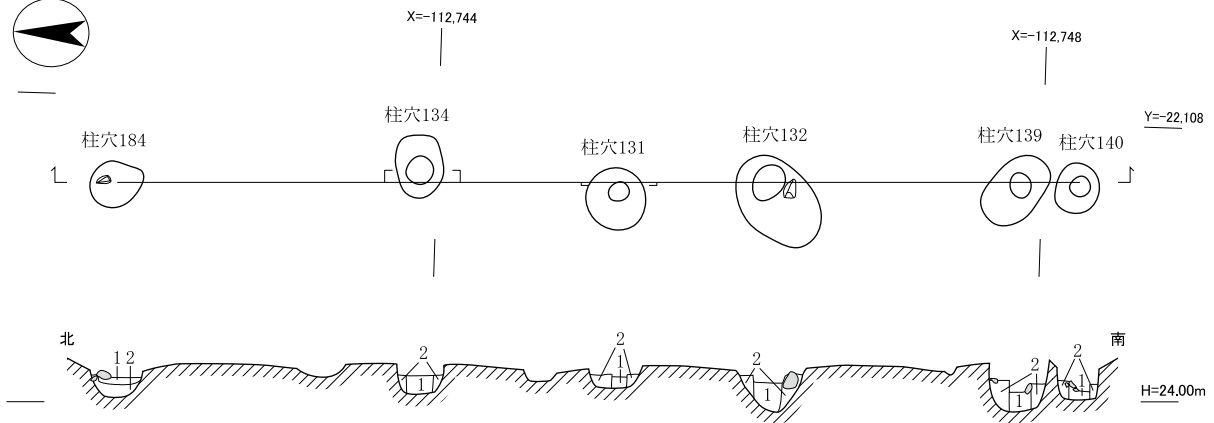
柱穴110
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴168
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥

柱穴169
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥

柱穴117
1 10YR3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥

柵3



柱穴184
1 10YR3/1黒褐色粘質土 粗砂混
2 2.5Y3/2黒褐色粘質土 細砂～粗砂混

柱穴134
1 10YR3/1黒褐色砂泥 細砂混
2 7.5YR3/1黒褐色砂泥

柱穴131
1 10YR4/2灰黄褐色砂泥 細砂混
2 10YR3/1黒褐色砂泥

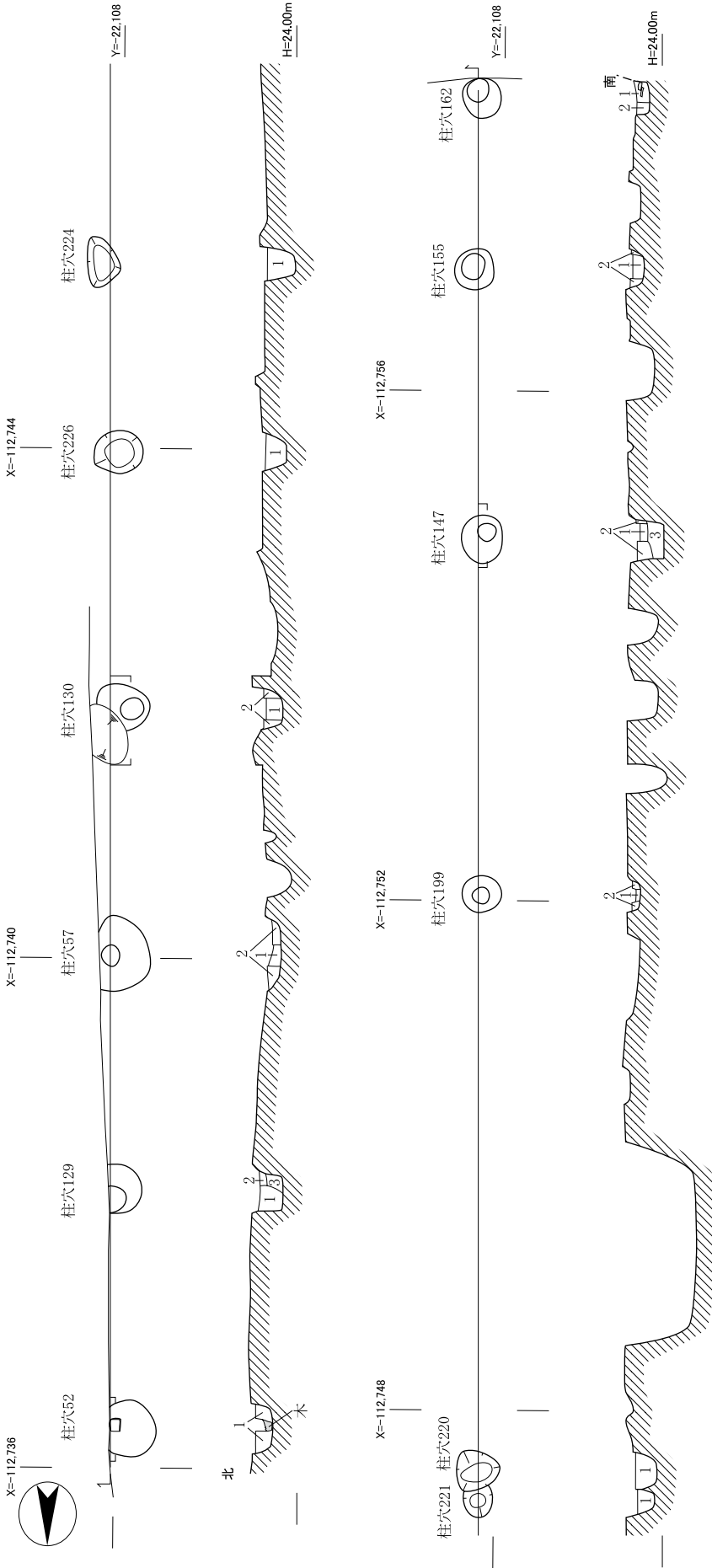
柱穴132
1 10YR3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/2黒褐色砂泥 細砂～粗砂混

柱穴139
1 10YR2/1黒色砂泥
2 10YR3/1黒褐色砂泥 粗砂混

柱穴140
1 10YR2/1黒色砂泥
2 10YR3/1黒褐色細砂～粗砂

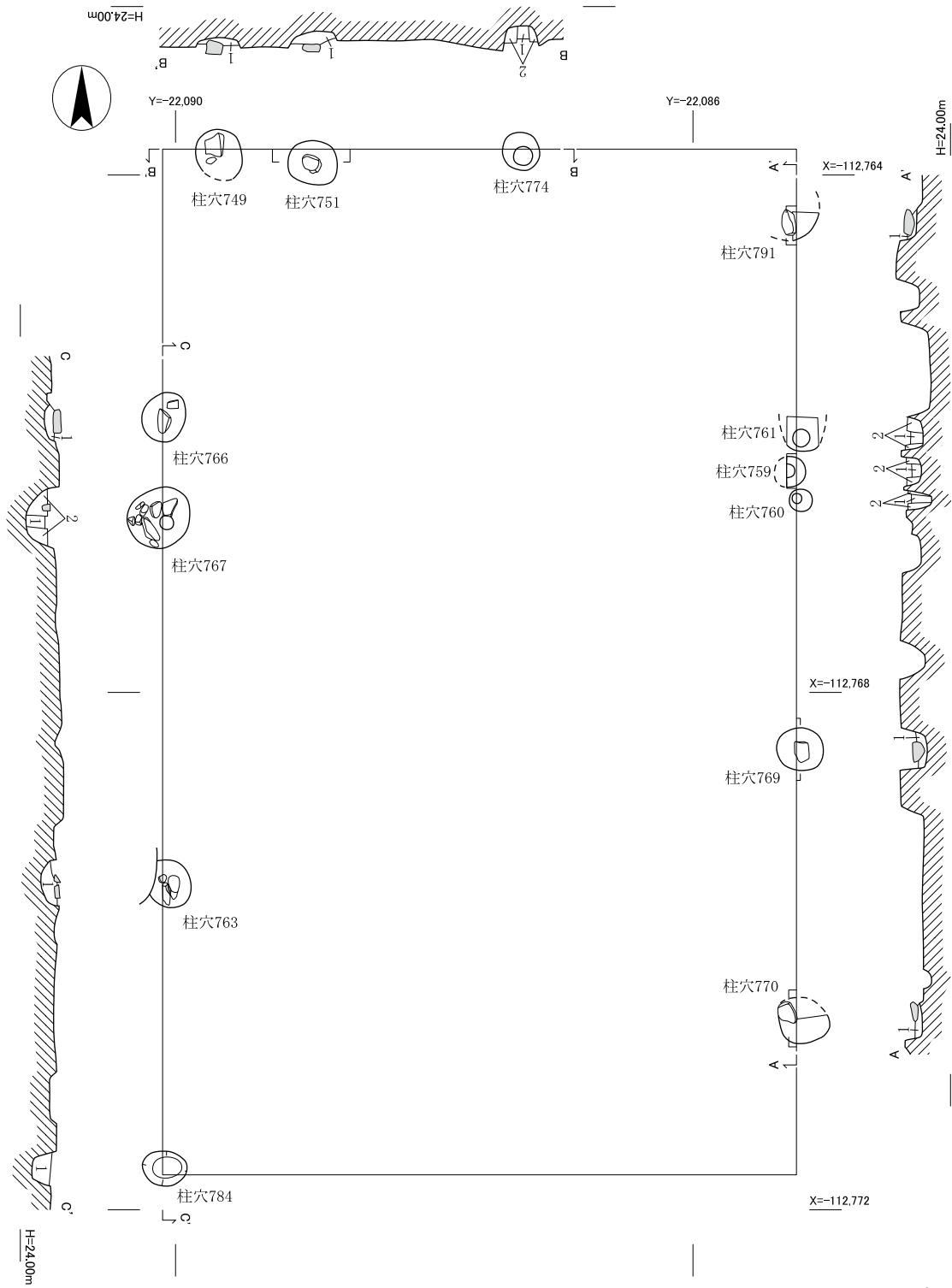


図版 10
遺構



1 区柵 2 実測図 (1 : 50)

- | | | | | | | | |
|--------------------------|--|---|---|---|---|---|---|
| 柱穴52
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 | 柱穴129
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/1黒褐色砂泥
3 10YR3/1黒褐色シルト | 柱穴220
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥粗砂混 | 柱穴52
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 | 柱穴129
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥 | 柱穴130
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥 | 柱穴226
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 | 柱穴224
1 2.5Y3/1黒褐色シルト |
| 柱穴221
1 2.5Y4/1黄灰色シルト | 柱穴199
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/4黒褐色砂泥 | 柱穴147
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/4黒褐色砂泥
3 2.5Y3/2黒褐色砂泥 | 柱穴155
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/4黒褐色砂泥 | 柱穴147
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/4黒褐色砂泥
3 2.5Y3/2黒褐色砂泥 | 柱穴155
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR3/4黒褐色砂泥 | 柱穴162
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR2/4黒褐色砂泥 | 柱穴162
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 10YR2/4黒褐色砂泥 |



C-C'

柱穴766
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴767
1 2.5Y4/1黄灰色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴763
1 2.5Y3/1黒褐色粘質土

柱穴784
1 2.5Y3/2黒褐色粘質土

B-B'

柱穴749
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴751
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴774
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

A-A'

柱穴791
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴761
1 2.5Y3/1黒褐色シルト
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥

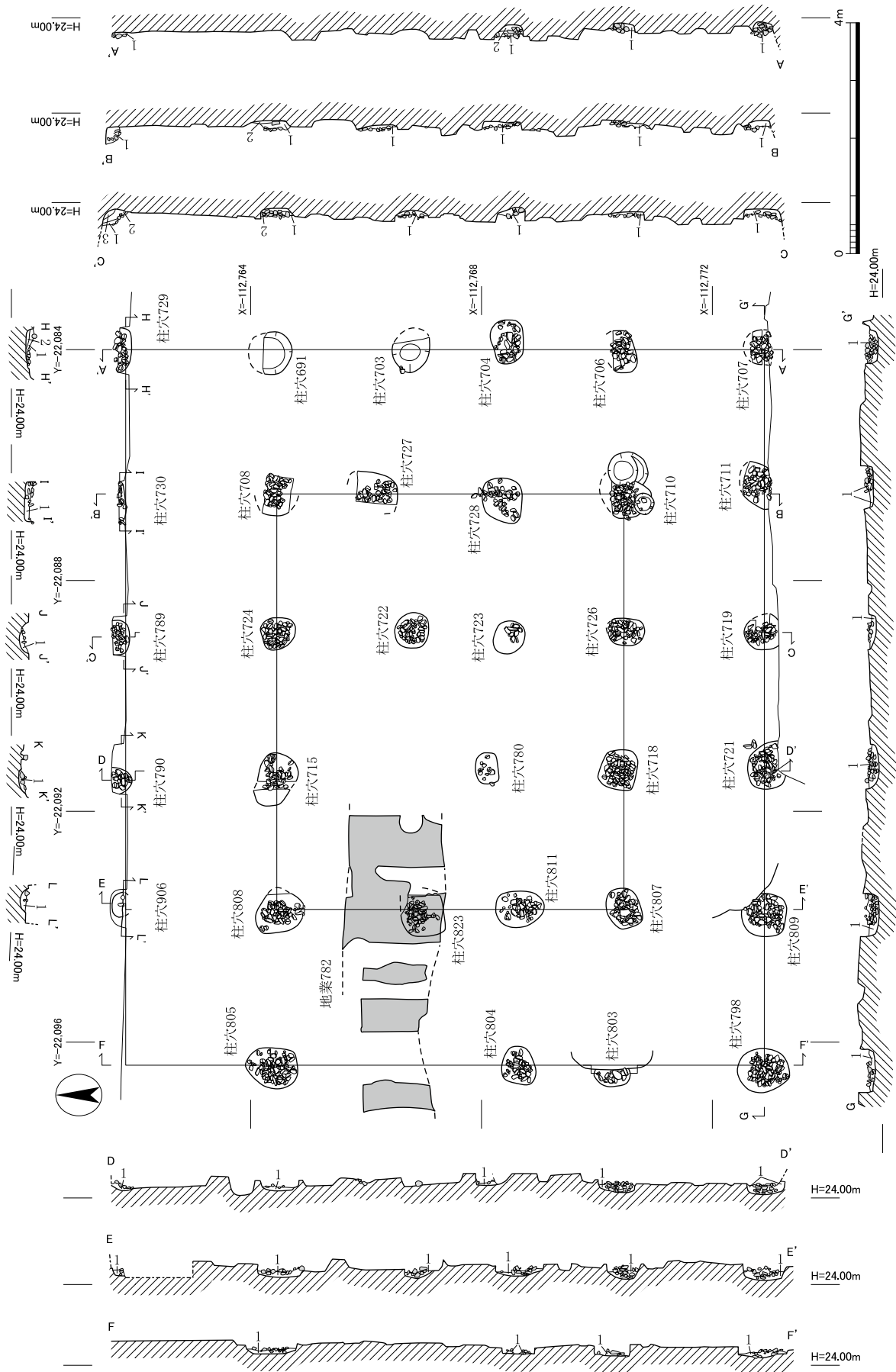
柱穴759
1 2.5Y3/2黒褐色シルト
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥

柱穴760
1 2.5Y3/2黒褐色シルト
2 2.5Y3/1黒褐色シルト

柱穴769
1 2.5Y4/1黄灰色シルト

柱穴770
1 2.5Y3/2黒褐色シルト

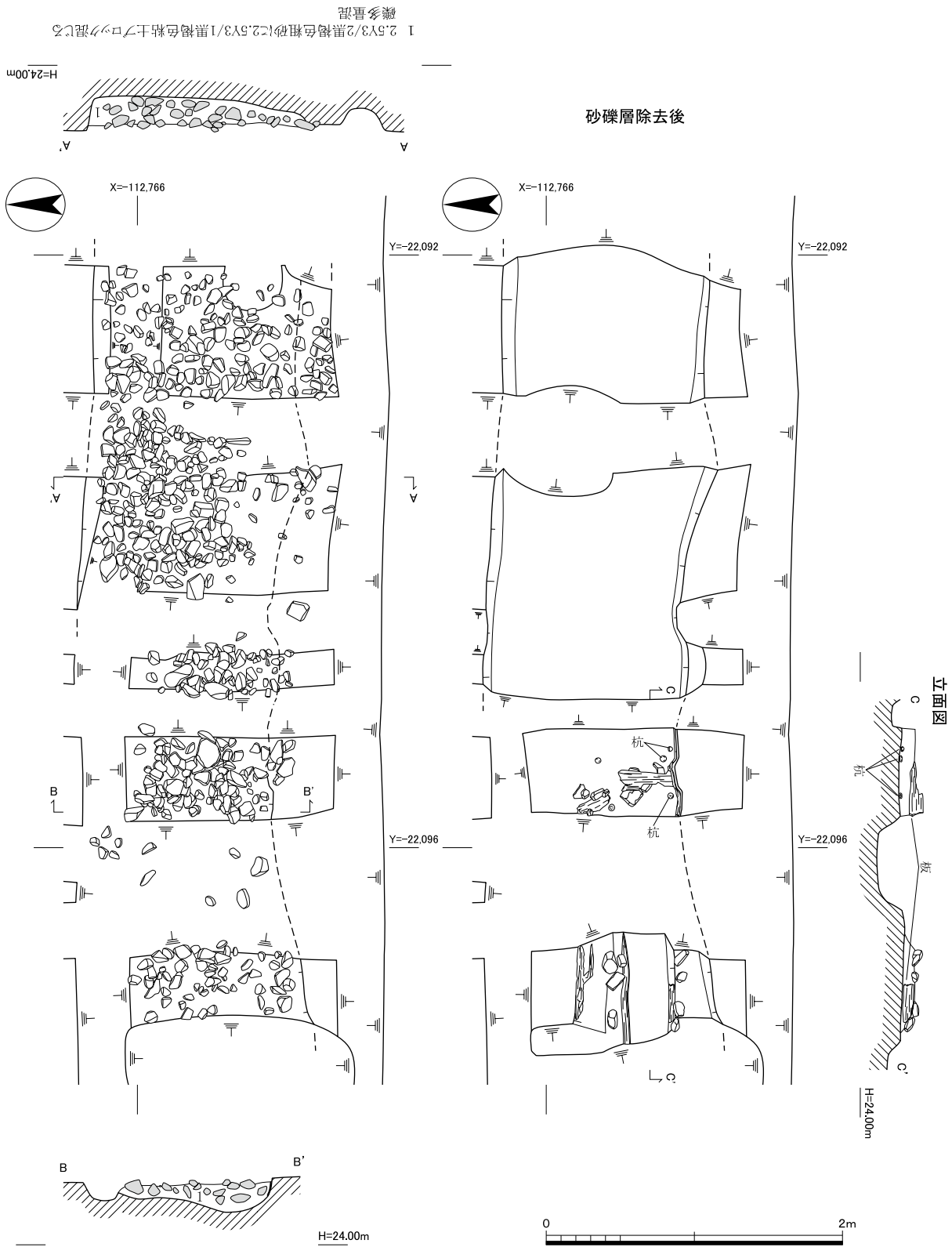
2区建物5実測図 (1 : 50)



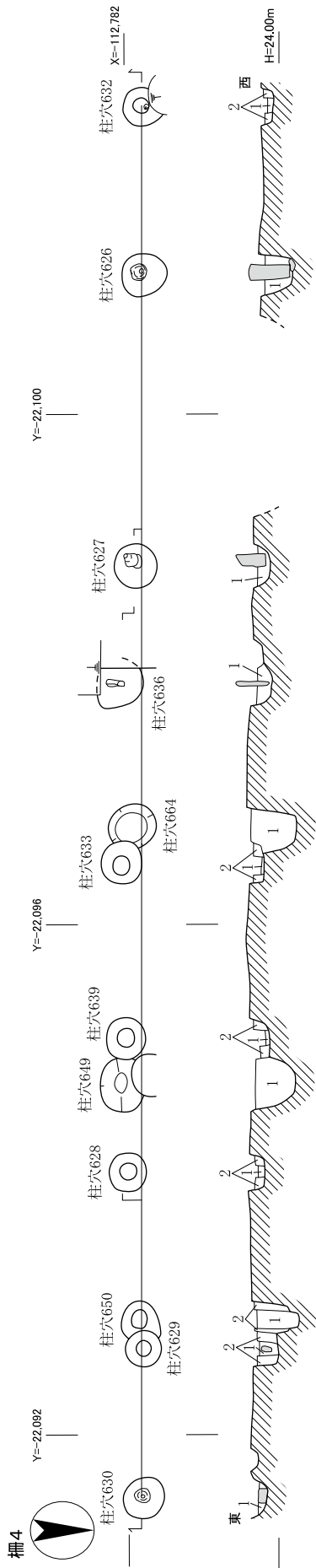
2区建物4実測図 (1 : 100)

F-F'	E-E'	D-D'	C-C'	B-B'	A-A'
柱穴805 1 10YR3/1黒褐色砂泥	柱穴906 1 2.5Y4/1黄灰色砂泥	柱穴790 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴789 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥 2 10YR3/1黒褐色砂泥 3 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴730 1 2.5Y4/1黄灰色砂泥	柱穴729 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥 シルト混じる
柱穴804 1 10YR3/1黒褐色砂泥	柱穴808 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥 粘質	柱穴715 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴724 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥 粘質 2 2.5Y4/1黄灰色砂泥 粘質	柱穴708 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 粘質 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥	柱穴704 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 2 2.5Y3/2黒褐色砂泥 粘質
柱穴803 1 10YR4/1褐色砂泥	柱穴823 1 2.5Y4/1黄灰色砂泥 粘質	柱穴780 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥	柱穴722 1 2.5Y4/1黄灰色砂泥 粘質 炭、雄土多量混	柱穴727 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴706 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
柱穴798 1 10YR3/2黒褐色砂泥	柱穴811 1 2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂泥	柱穴718 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴723 1 2.5Y4/1黄灰色砂泥 粘質	柱穴728 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴707 1 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥 粘質
	柱穴807 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴721 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥	柱穴726 1 2.5Y3/2黒褐色砂泥 粘質	柱穴710 1 2.5Y4/2暗灰黄色砂泥	
	柱穴809 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 粘質		柱穴719 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 粘質	柱穴711 1 2.5Y2/1黒色砂泥	

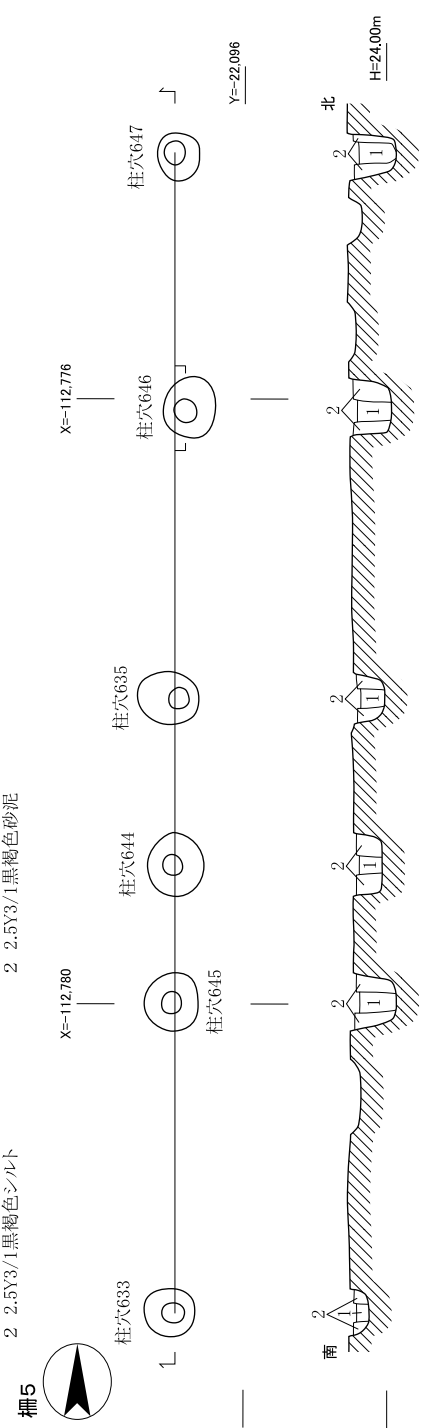
2区建物4土層名



I 2.5Y3/2黒褐色粗砂に2.5Y3/1黒褐色粘土ブロック混じる
礫多量混



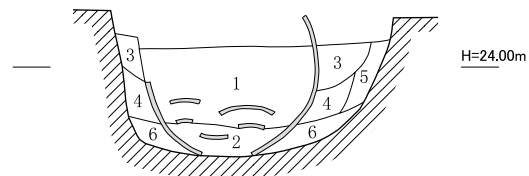
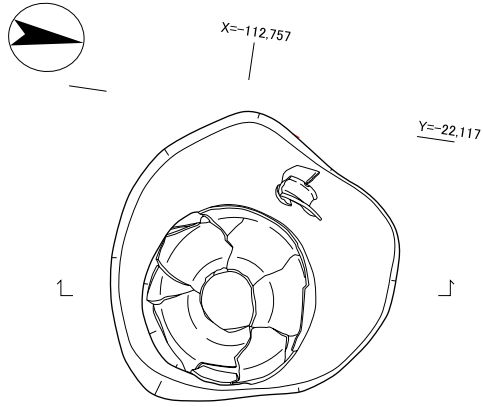
- 柱穴630
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴629
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴650
1 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂
2 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 柱穴628
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴649
1 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 柱穴639
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴633
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴664
1 10YR3/1黒褐色シルト
- 柱穴636
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴627
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 柱穴626
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 柱穴632
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥



- 柱穴633
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴645
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 柱穴644
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 柱穴635
1 2.5Y3/2黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 柱穴646
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 柱穴647
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥
2 2.5Y3/2黒褐色砂泥

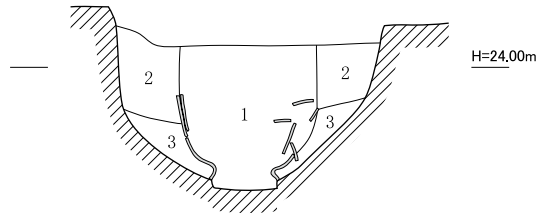
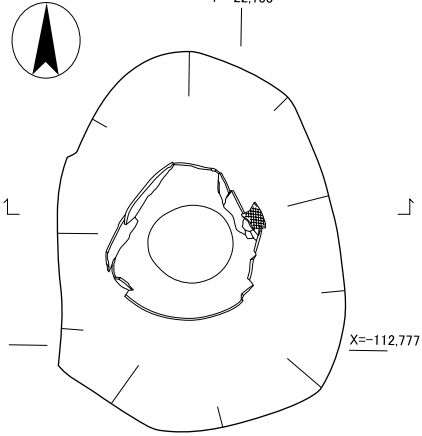
2区柵4・5実測図 (1:50)

1区 井戸41



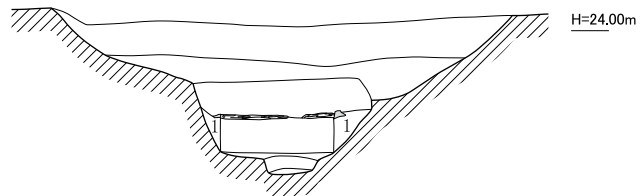
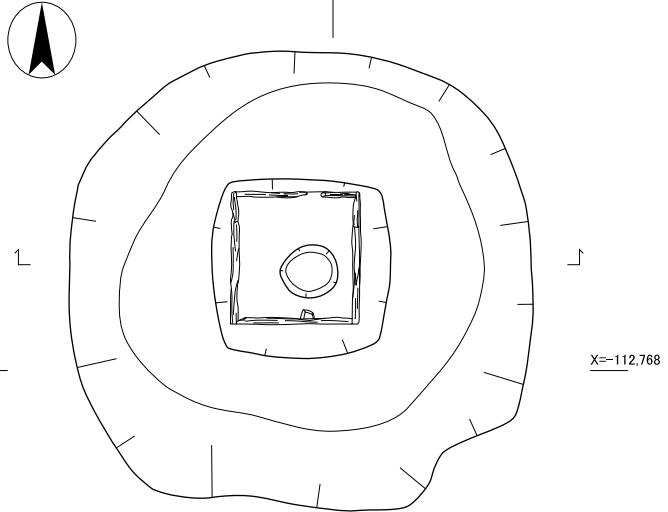
- 1 2.5YR4/1黄灰色砂泥
- 2 10YR4/2灰黄褐色砂泥 やや粘質 砂礫混じる
- 3 10Y3/2黒褐色砂泥
- 4 10YR4/2灰黄褐色砂泥
- 5 2.5Y5/2暗灰黄色砂泥
- 6 10YR3/2黒褐色砂礫

2区 井戸600



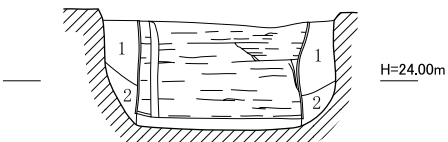
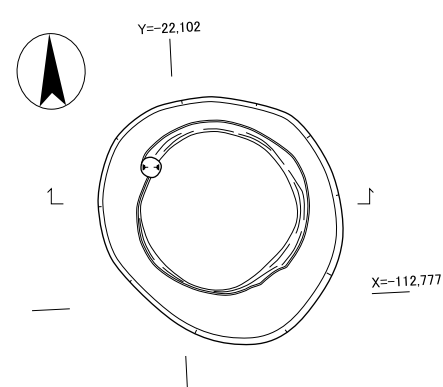
- 1 10YR3/1黒褐色粘質土
- 2 10YR3/2黒褐色砂質土
- 3 7.5YR4/6褐色粗砂+10YR4/1褐灰色粘質土

2区 井戸700



- 1 2.5Y4/1黄灰色泥砂+2.5Y4/2暗灰黄色粘質土

2区 井戸603

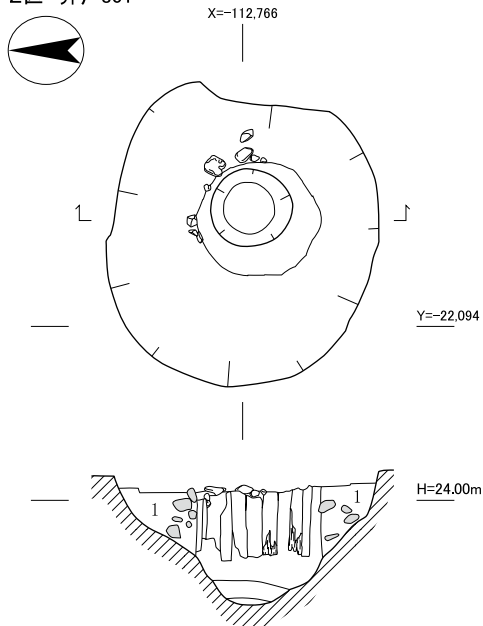


- 1 10YR3/2黒褐色粘質土
- 2 10YR3/1黒褐色粘質土



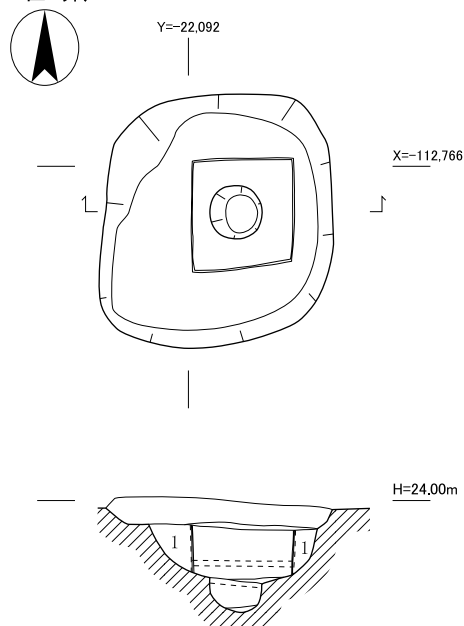
1区井戸41、2区井戸600・603・700実測図（1：20、井戸700のみ1：50）

2区 井戸801



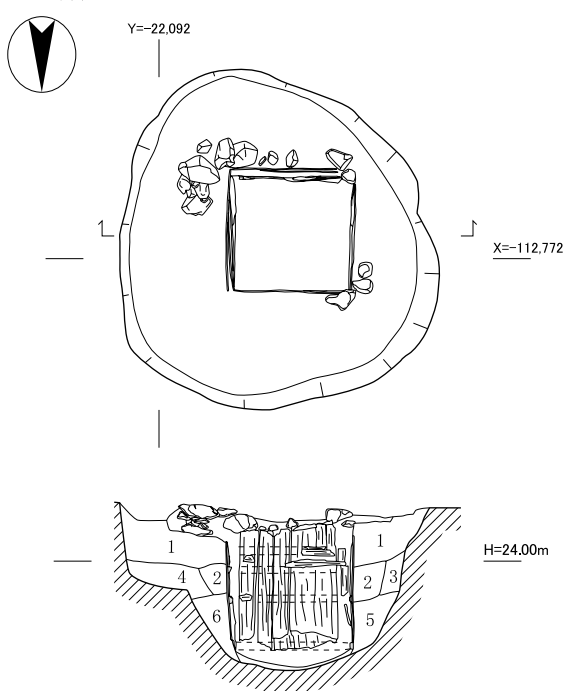
1 2.5Y4/1黄灰色砂泥 礫多量混

2区 井戸883



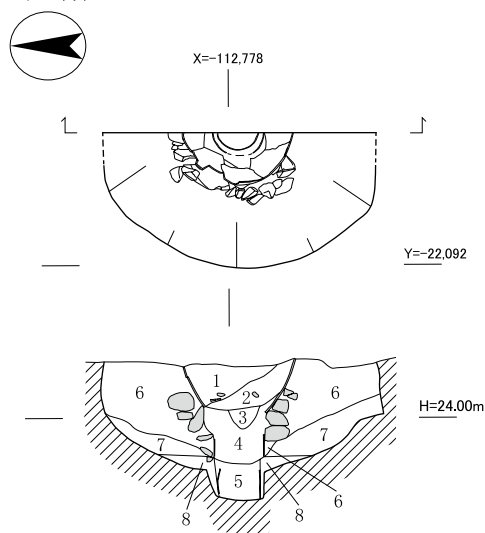
1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 砂混 炭、土師器片少量

2区 井戸787



1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 泥砂混 木片少量
2 5Y3/1オリーブ黒色砂泥 木片少量
3 5Y4/1灰色砂泥
4 5Y4/1灰色泥砂
5 5Y4/1灰色砂泥
6 2.5Y4/2暗灰黄色泥砂

2区 井戸571

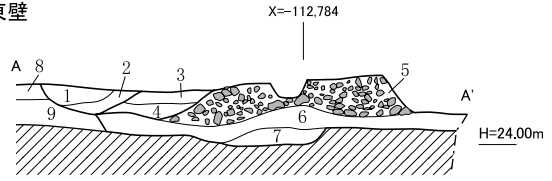


1 2.5Y3/1黒褐色砂泥 シルト・砂混じり
2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
3 2.5Y3/2黒褐色砂泥
4 2.5Y3/2黒褐色砂泥 砂混じり
5 10YR4/4褐色粗砂に7.5YR2/1黒色粘質土を含む
6 2.5Y2/1黒色砂泥 10YR4/4褐色粗砂混じる
7 2.5Y3/1黒褐色粘質土
8 10YR4/3にぶい黄褐色粗砂



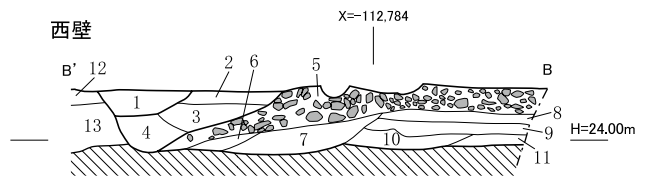


東壁



- 1 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 2 2.5Y3/1黒褐色粘質土 (溝593a)
- 3 10YR2/2黒褐色粘質土 (溝593b)
- 4 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 5 2.5Y3/1黒褐色砂泥 礫多量混
- 6 2.5Y3/2黒褐色粘質土 (道路構築土)
- 7 2.5Y3/1黒褐色粘質土
- 8 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 9 2.5Y3/2黒褐色砂泥 (整地層)

西壁



- 1 2.5Y3/1黒褐色砂泥～粘質土(溝593a)
- 2 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 3 2.5Y3/2黒褐色砂泥やや粘質 (溝593b)
- 4 2.5Y3/1黒褐色シルト
- 5 2.5Y3/2黒褐色砂泥 礫多量混
- 6 2.5Y3/1黒褐色粘質砂泥
- 7 2.5Y3/2黒褐色粘質砂泥 (道路構築土)
- 8 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 9 10YR3/2黒褐色砂泥
- 10 10YR3/3暗褐色砂泥
- 11 2.5Y3/2黒褐色砂泥
- 12 2.5Y3/1黒褐色砂泥
- 13 10YR3/1黒褐色粘質土 (整地層)



2区道路640実測図 (1:50)



1 1区 第3面全景（北西から）



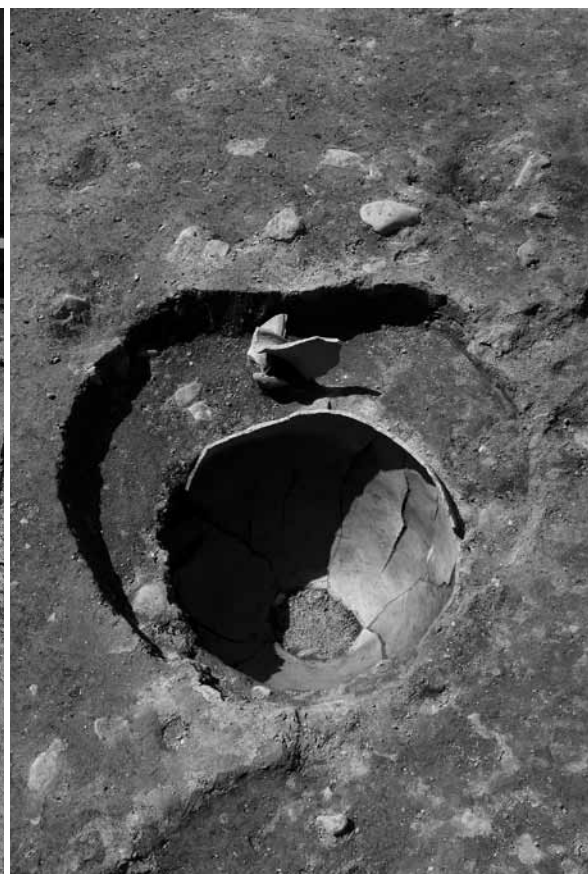
2 1区 第1・2面全景（北西から）



1 1区 建物1・2 (西から)



2 1区 柵2・3 (北から)



3 1区 井戸41 (東から)



1 2区北半 第3面全景（北西から）



2 2区南半 第3面全景（北から）



1 2区南半 第2面全景（北から）



2 2区南半 第1面全景（北から）



1 2区北半 第1・2面全景（東から）



2 2区 建物4西半（北から）



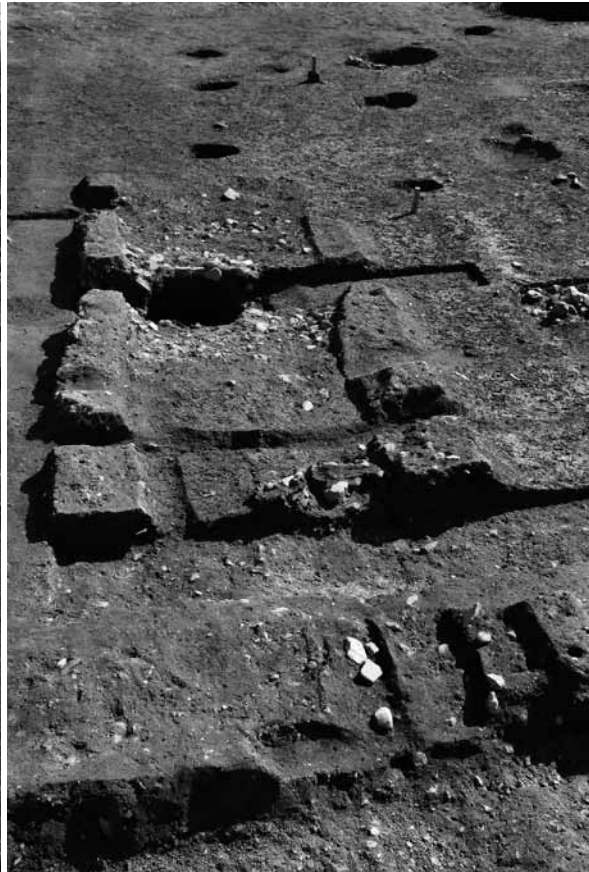
3 2区 建物4の柱穴718（西から）



4 2区 建物4の柱穴718半裁（西から）



1 2区 地業782 (西から)



2 2区 地業782砂礫除去後 (西から)



3 2区 地業782木板 (北西から)



4 2区 柱穴777半裁 (東から)



5 2区 柱穴829・830半裁 (東から)



1 2区 柵5 (北から)



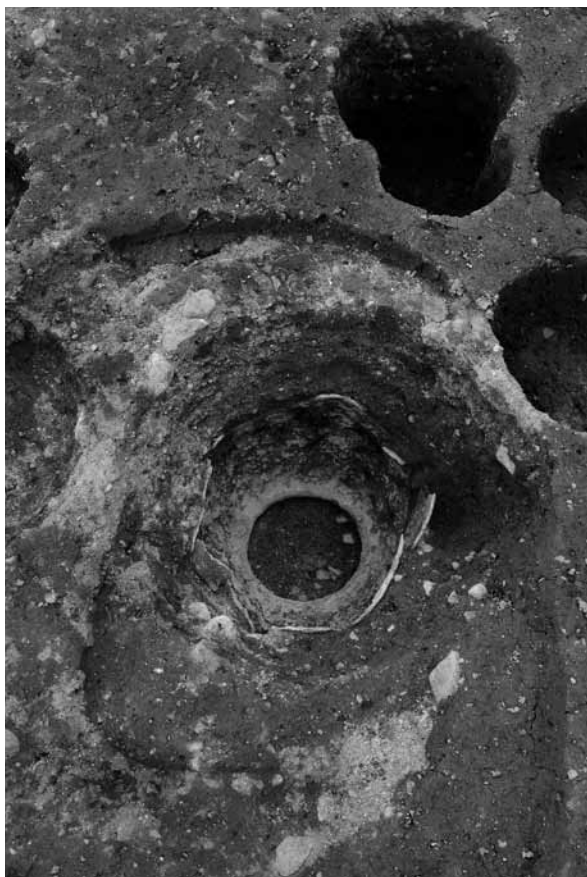
2 2区 柵4の柱穴626 (北から)



3 2区 柵4の柱穴627 (北から)



4 2区 道路640断面 (西から)



1 2区 井戸600 (北から)



2 2区 井戸801 (西から)



3 2区 井戸787 (北から)



4 2区 井戸571 (西から)



出土土器

報 告 書 抄 録

ふりがな	へいあんきょうさきょうくじょうさんぼうはっちょうあと・からすまちょういせき							
書名	平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡							
シリーズ名	京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告							
シリーズ番号	2017-8							
編著者名	鈴木康高・松吉祐希							
編集機関	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
所在地	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1							
発行所	公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所							
発行年月日	西暦2018年3月30日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
へいあんきょうあと 平安京跡 からすまちょういせき 烏丸町遺跡	きょうとしみなみく 京都市南区 ひがしくじょうむろまち 東九条室町 46-2、56	26100	1 759	34度 59分 00秒	135度 45分 28秒	2017年8月 1日～2017 年11月10日	752.8m ²	ホテル 新築工事
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物		特記事項		
平安京跡 烏丸町遺跡	都城跡 集落跡	平安時代 鎌倉時代前半 鎌倉時代後半以降	流路、平坦面、素掘り溝群 礎石建物、掘立柱建物、地業、柵、井戸、道路、土坑	土師器、須恵器、緑釉陶器、灰釉陶器、黒色土器、瓦類 土師器、須恵器、灰釉陶器、瓦器、焼締陶器、輸入陶磁器、銭貨、ガラス、石製品、動物遺存体		平安時代の流路及び耕作に伴う平坦面や素掘り溝群を検出した。 鎌倉時代の仏堂と考えられる礎石建物や針小路構築土及び北側溝を検出した。		
			素掘り溝群	土師器、施釉陶器、輸入陶磁器				

京都市埋蔵文化財研究所発掘調査報告 2017-8

平安京左京九条三坊八町跡・烏丸町遺跡

発行日 2018年3月30日

編集
発行 公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

住所 京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町265番地の1
〒602-8435 TEL 075-415-0521
<http://www.kyoto-arc.or.jp/>

印刷 三星商事印刷株式会社

住所 京都市中京区新町通竹屋町下る弁財天町298番地
〒604-0093 TEL 075-256-0961